



* 0008041000 *

0008041-000

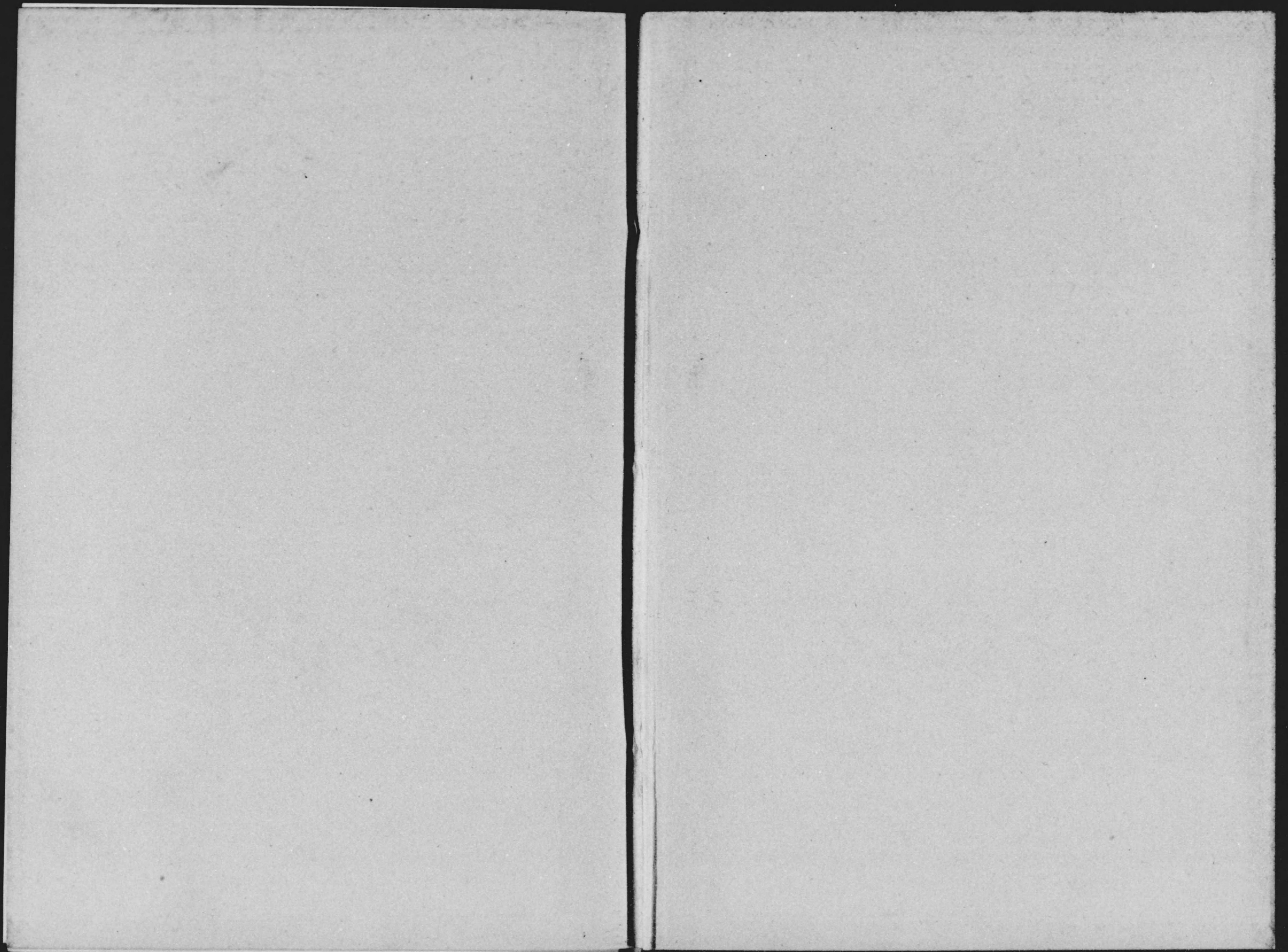
特 225-706

消防名鑑

中央書院

昭和 4

ABH



特225
706



消
防
名
鑑

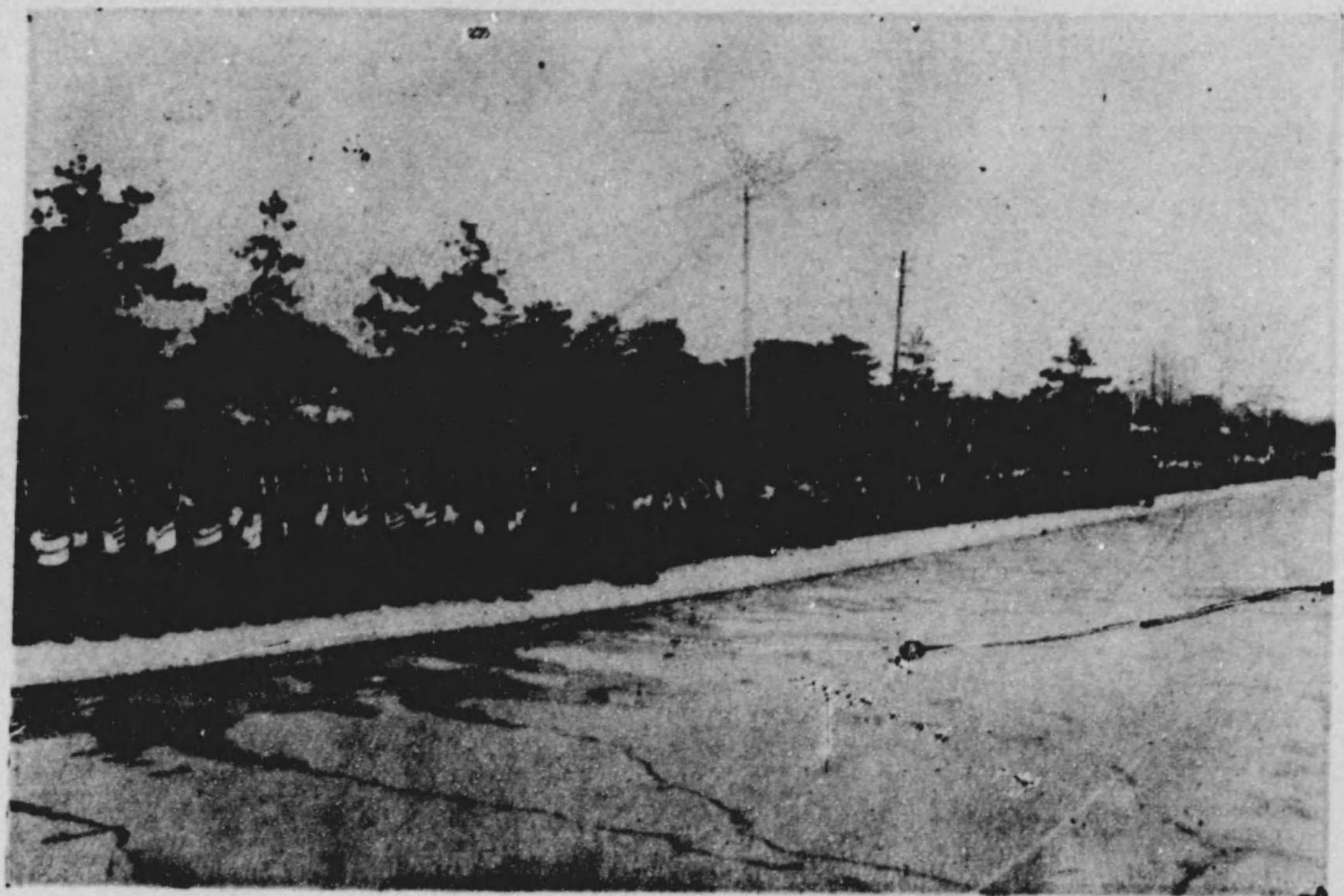
東京
中央書院發行



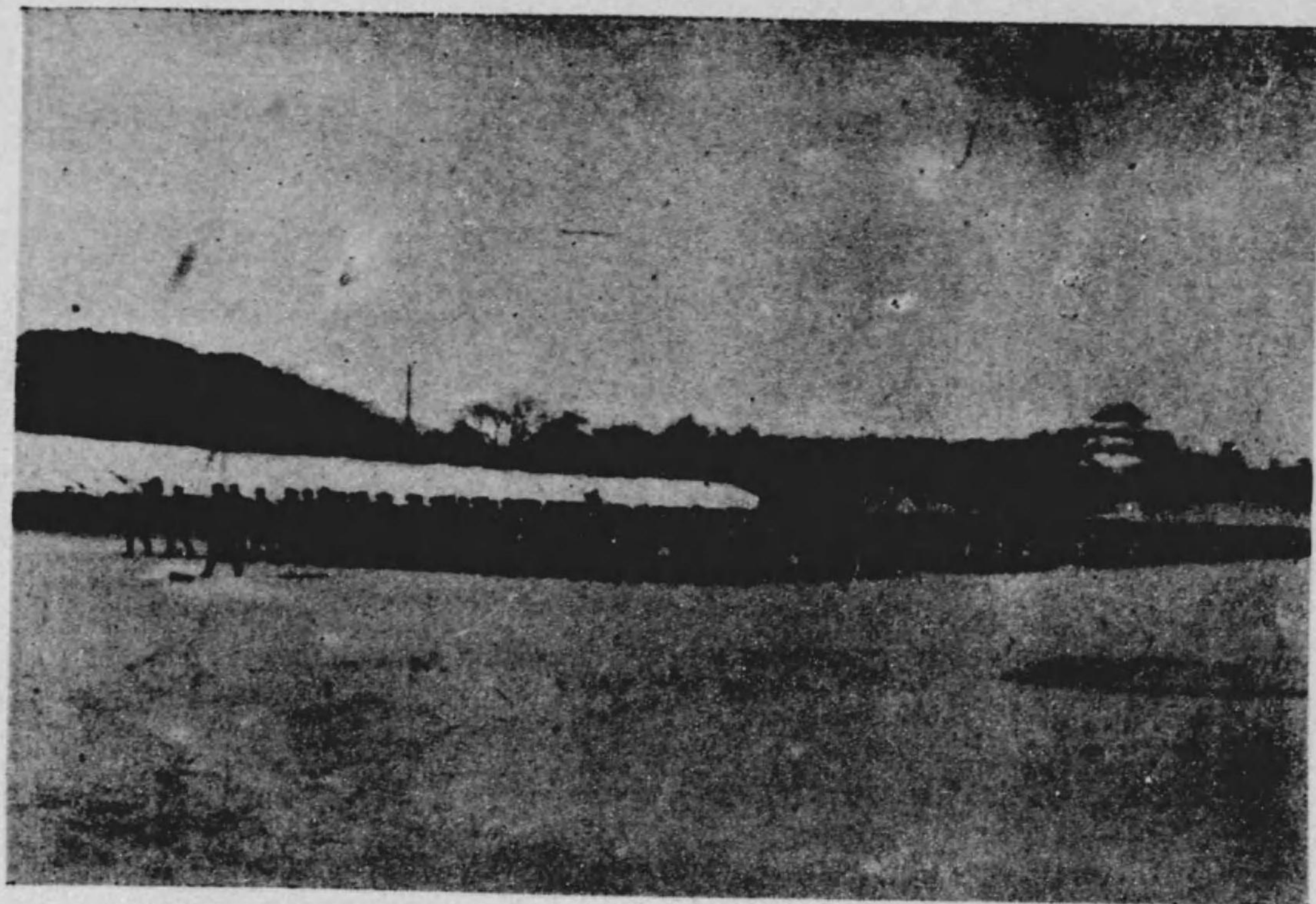
(一) 列整の隊表代組消防國全



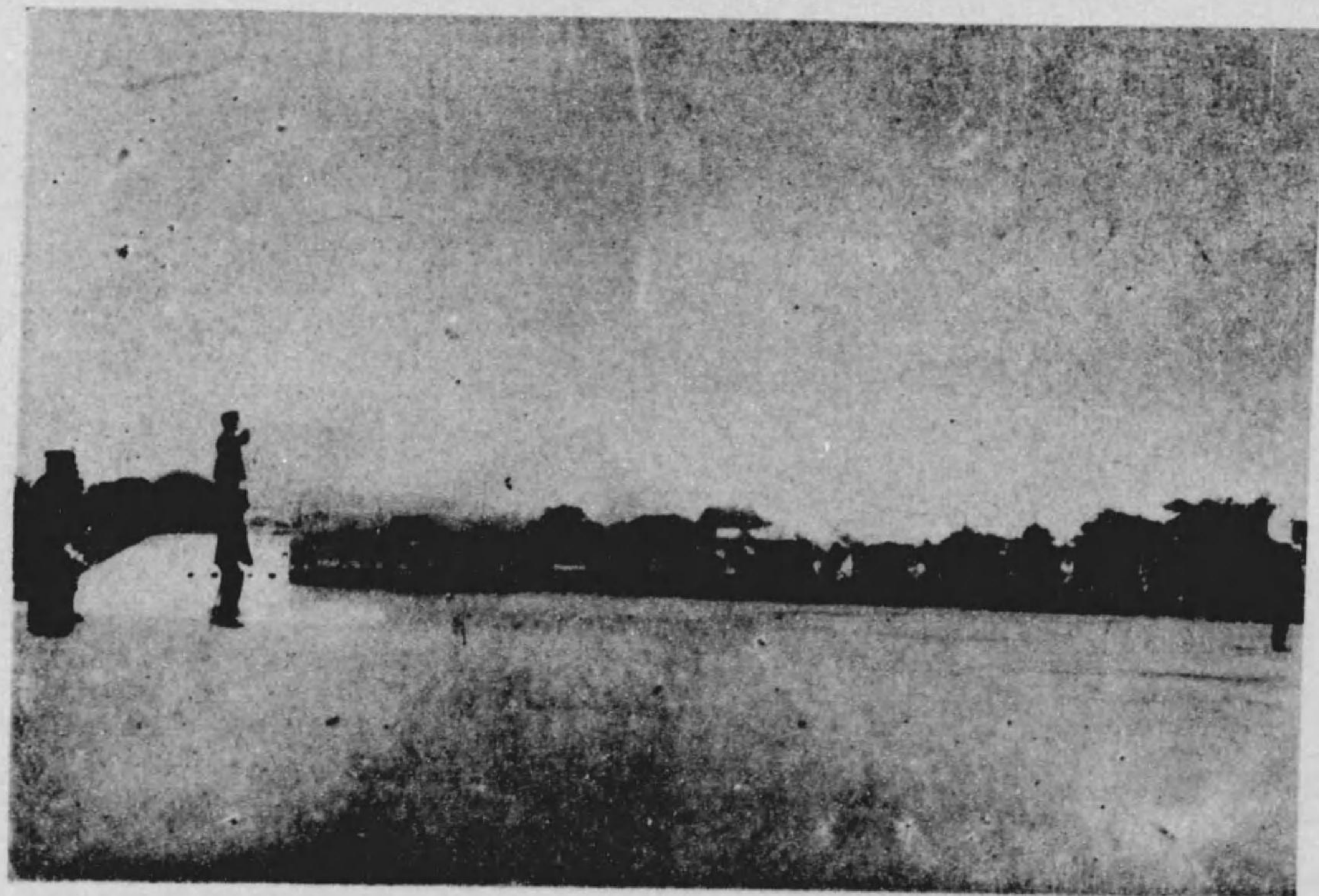
(二) 列整の隊表代組消防下府京東



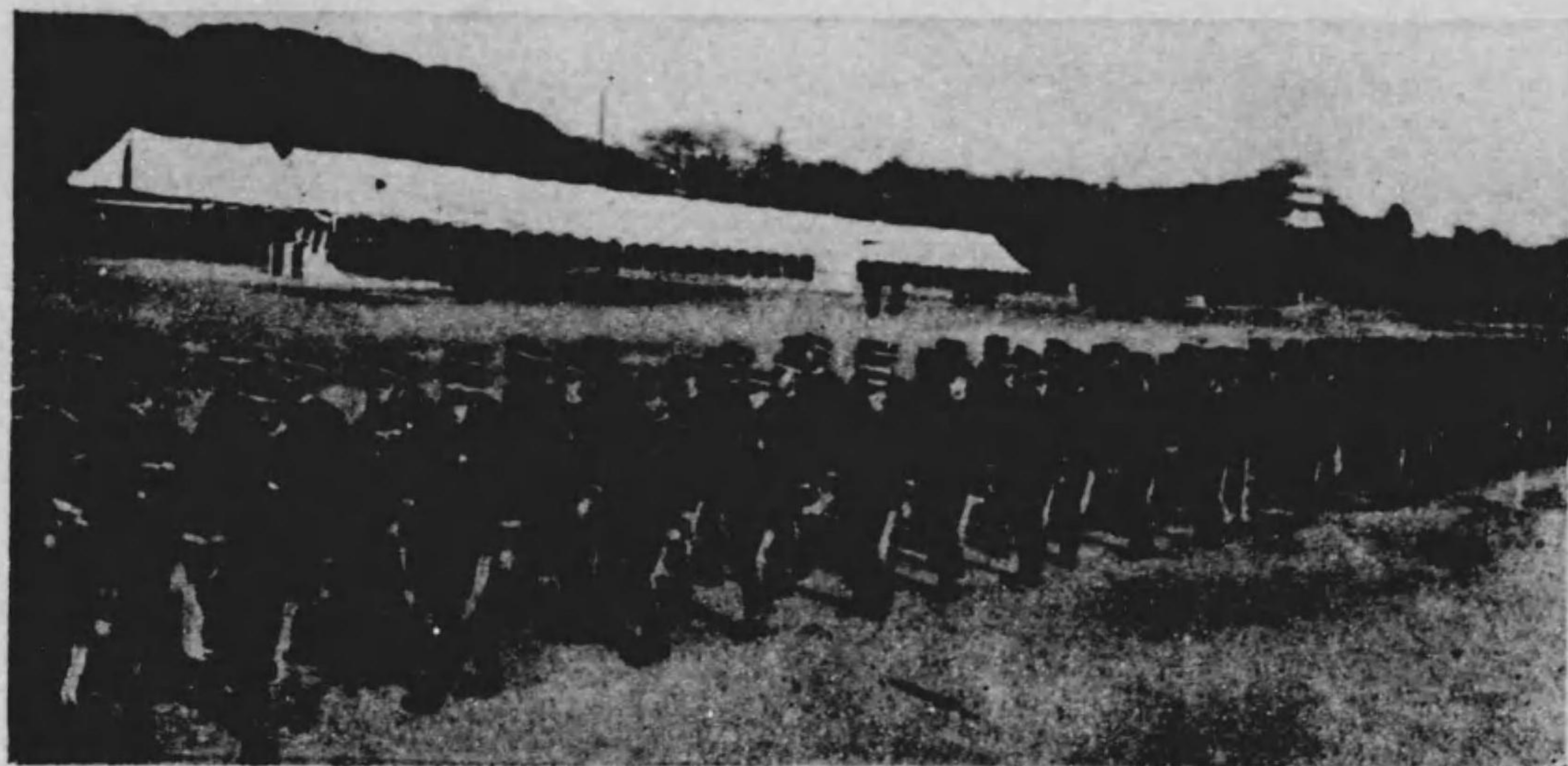
(五) 列分歩徒の隊表代組消防國全



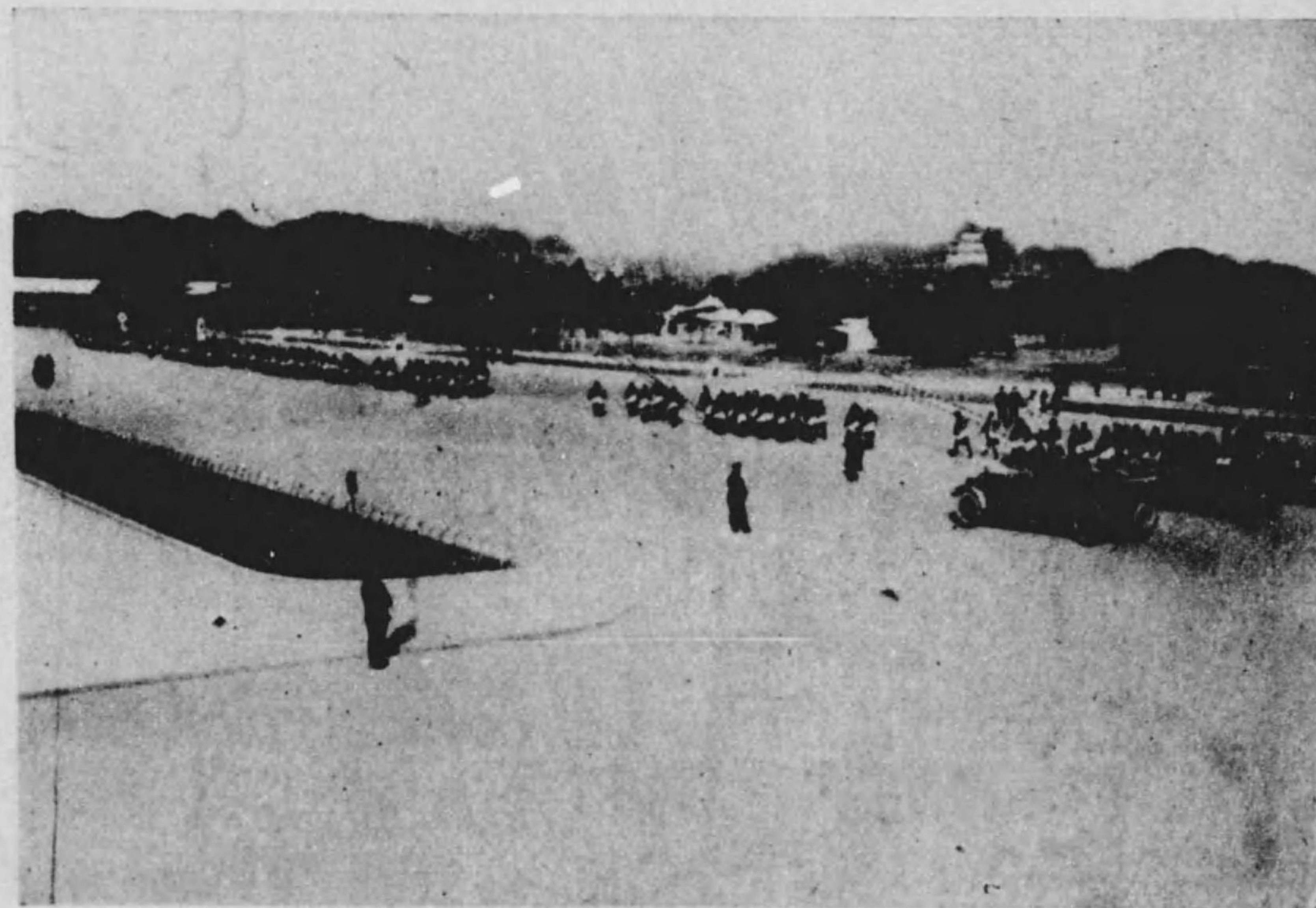
(六) 列分遺木の組消防市京東



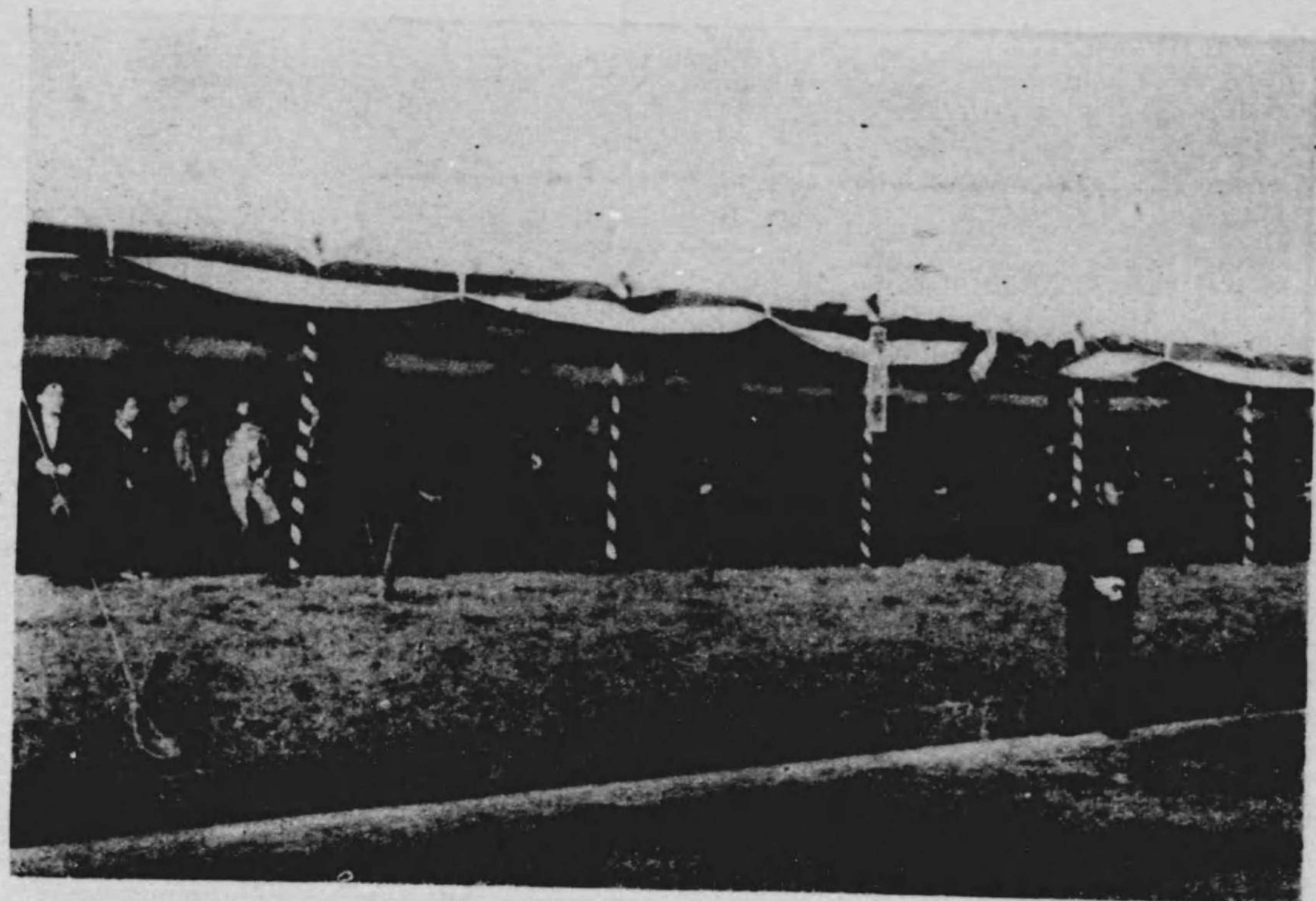
(三) 入參場式の隊消防設公



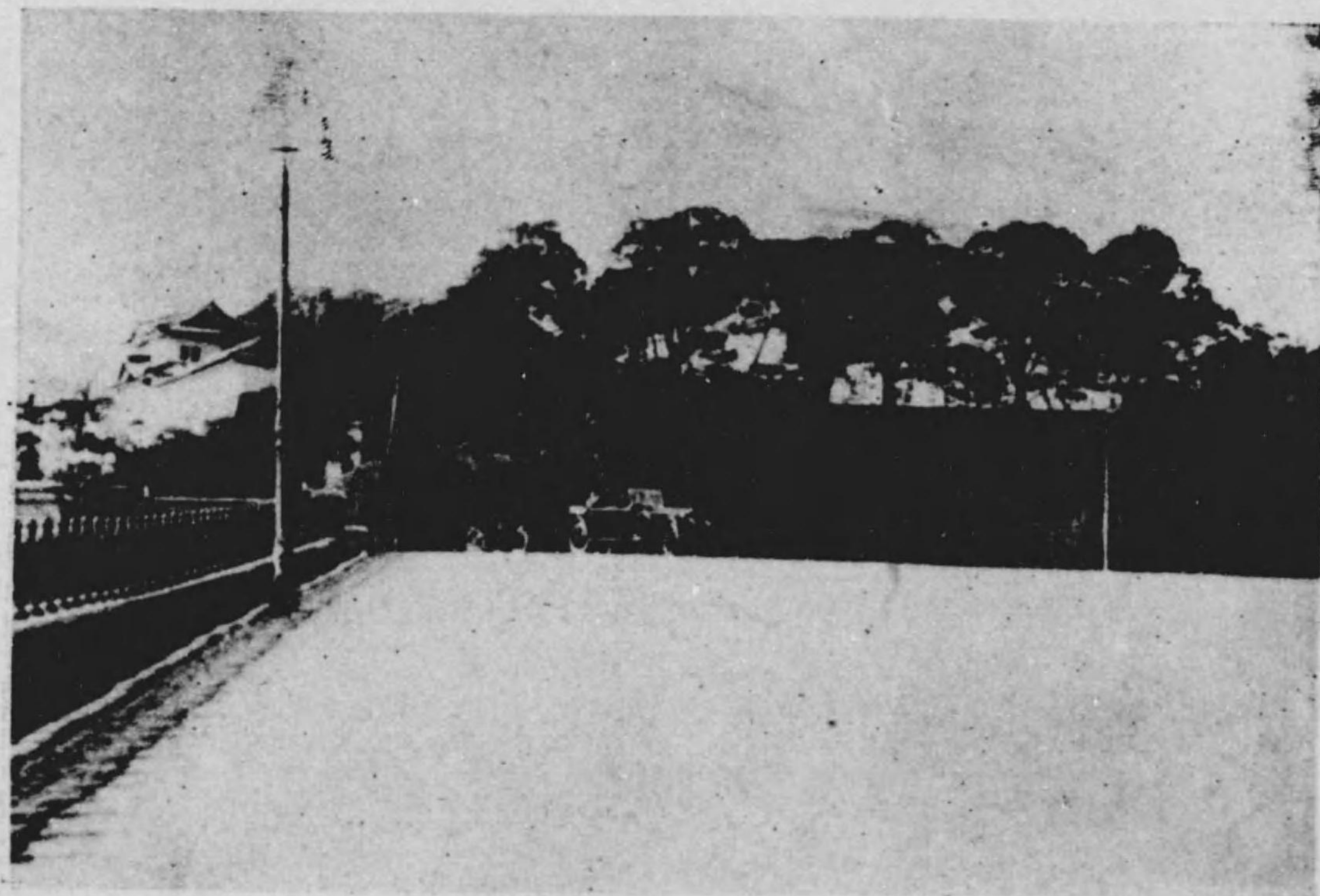
(四) 入參場式の組消防市京東



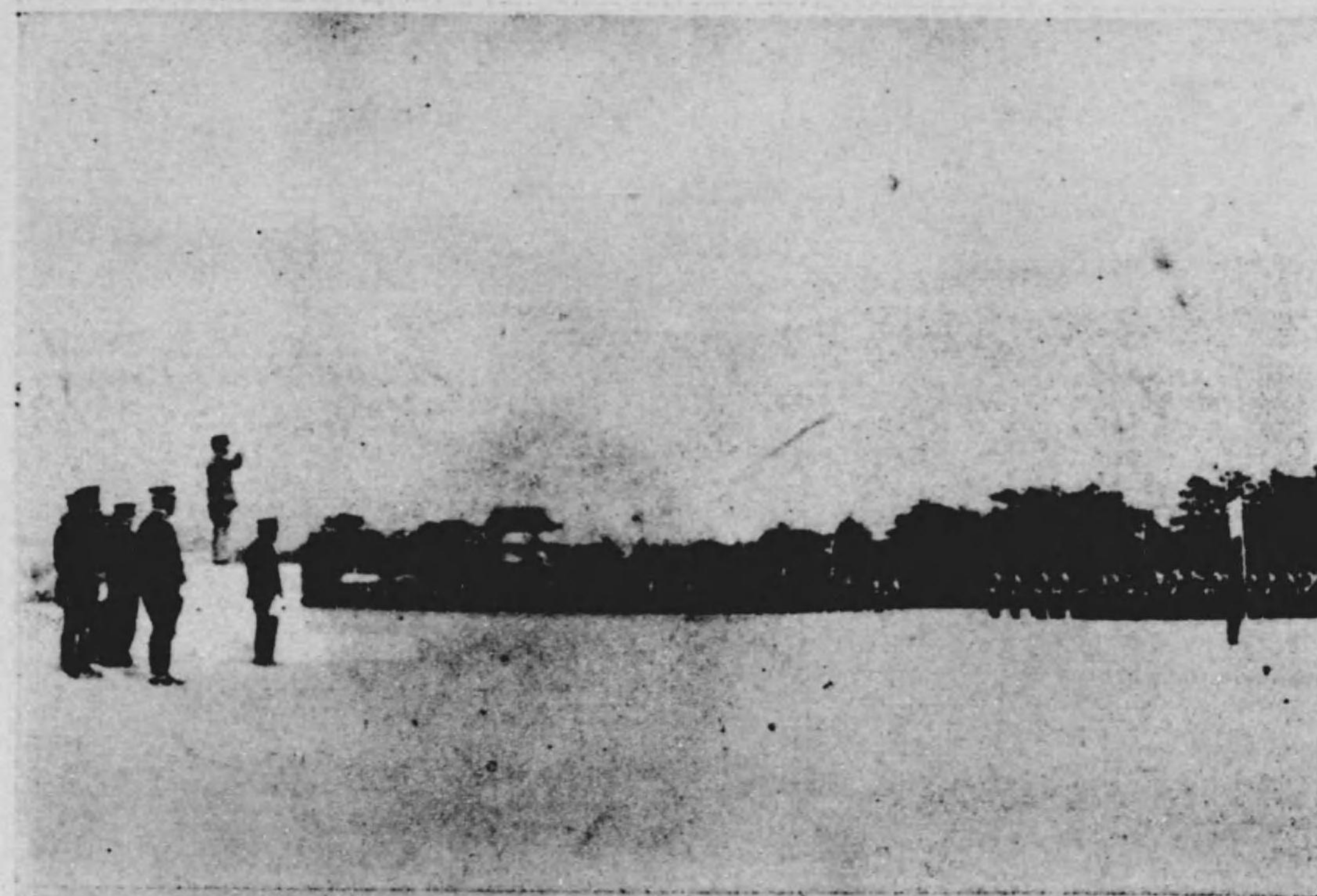
(九) 陪 列 席



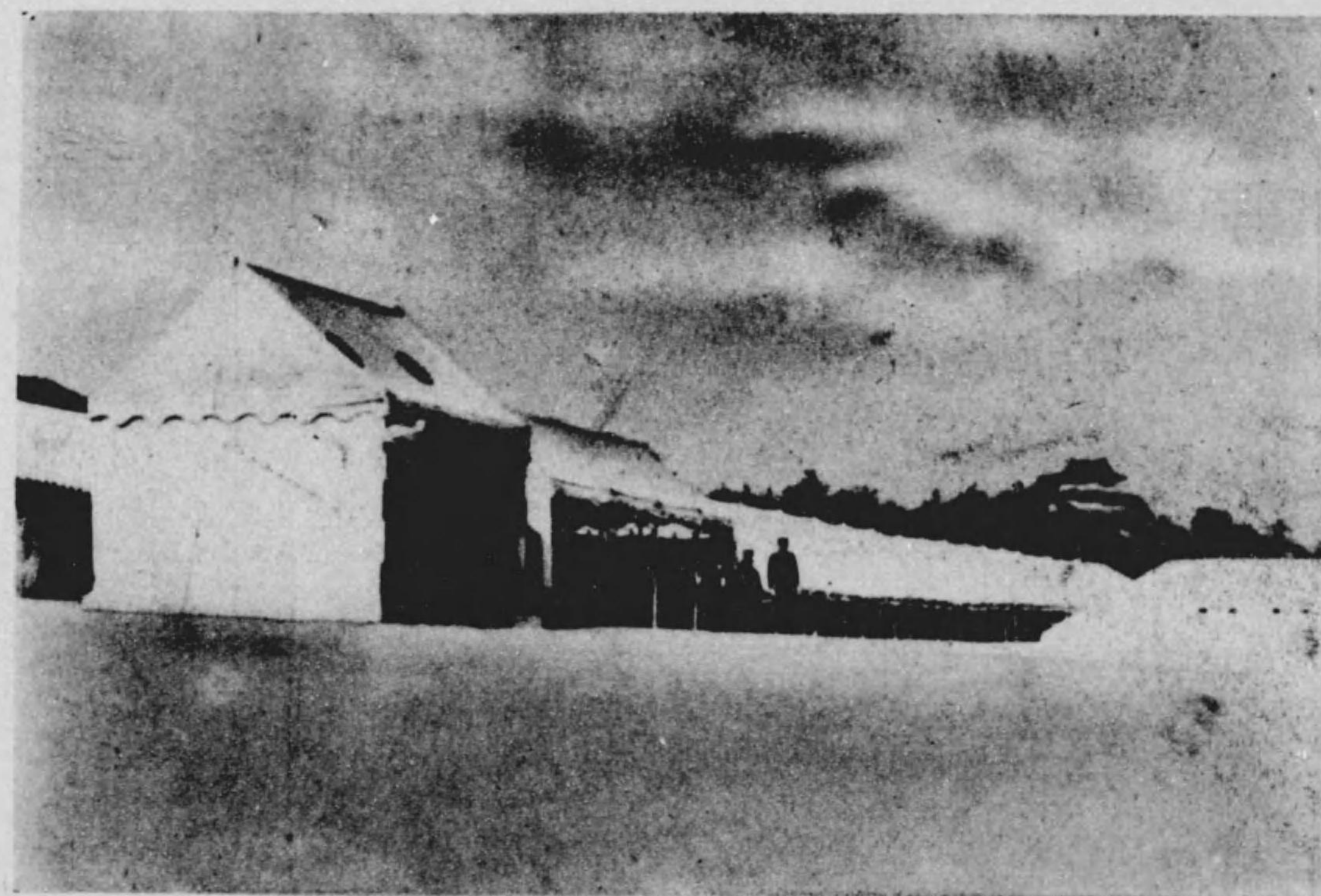
(十) 聖 上 臨 御



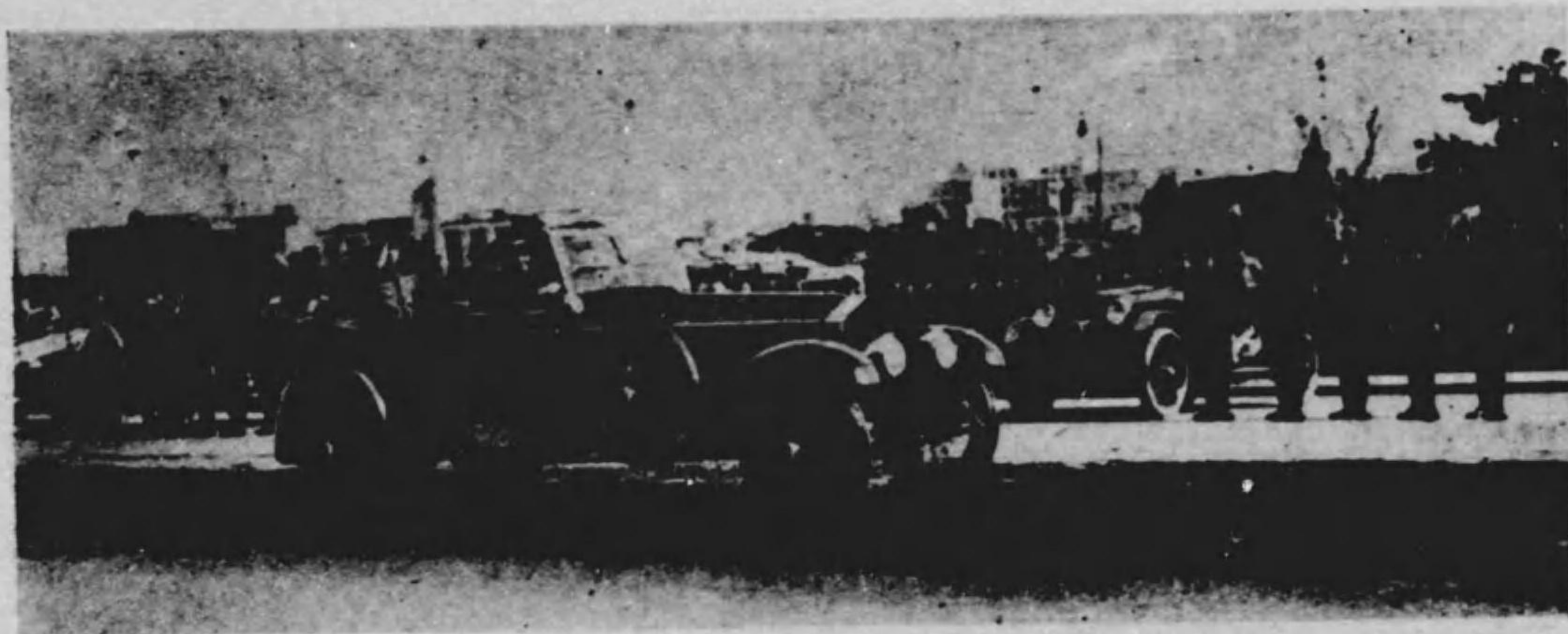
(七) 東 京 府 下 優 良 消 防 隊 青 年 女 子 消 防 隊 分 列



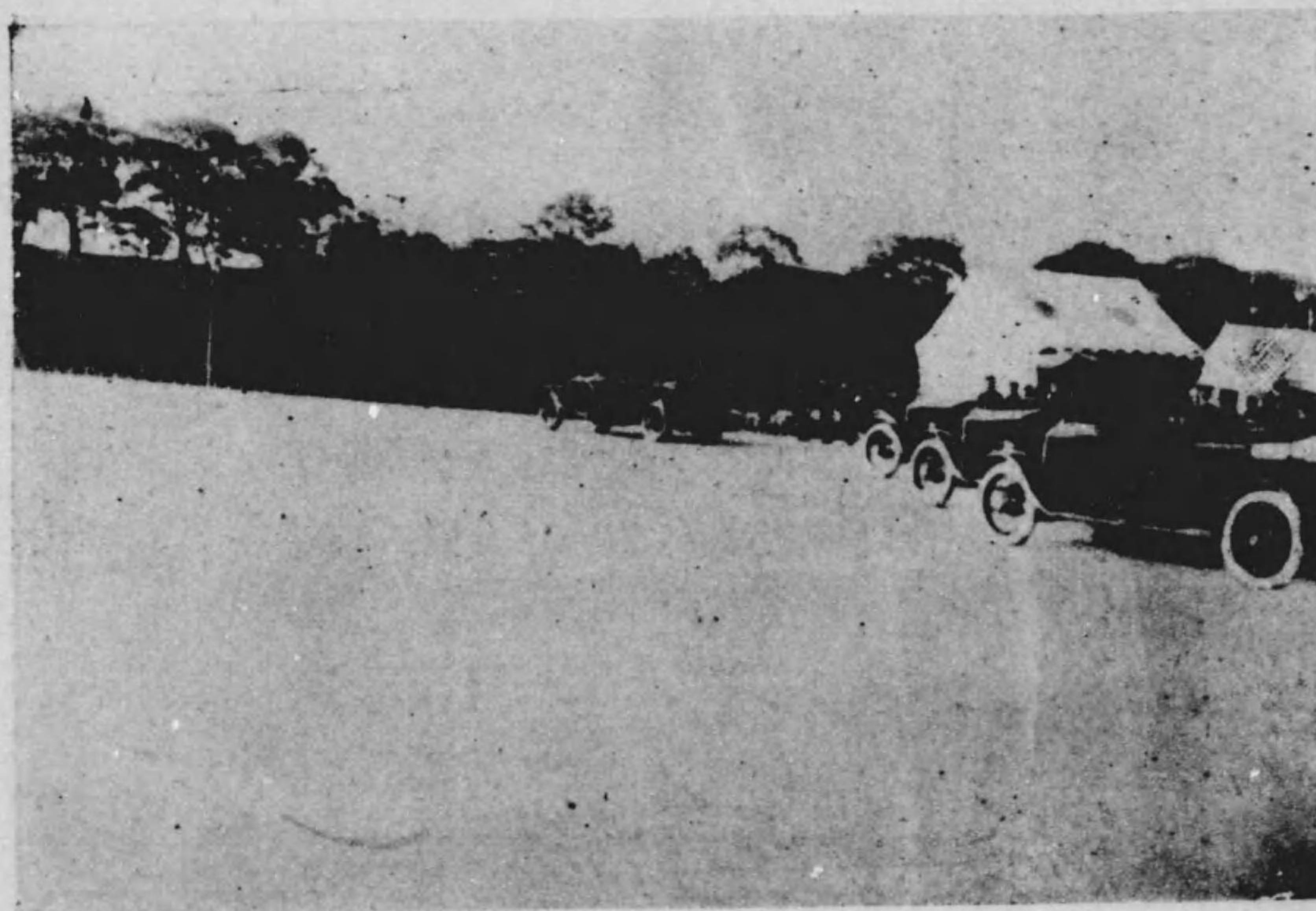
(八) 玉 座 と 便 殿



(一十) 各 隊 御 親 閱



(二十) 還 御



序

畏くも 聖上陛下には、御即位の第一春たる昭和四年一月六日の佳辰をトせられ、宮城外苑二重橋前に於て全國消防組を御親閱あらせられ、いとゞ盛大な出初式を擧げさせ給ふた。此の日大内山の松の翠は朝暉に照り映えて色ますます濃やかに、瑞祥昭和の氣は飄颻として津々浦々にみなぎつた。顧みるに 陛下曩きに皇儲に在せし大正十五年の初頭に、始めて帝都消防隊を親しく觀はせられ、今又茲に御即位早々全國消防組の代表者を召されて此の空前の榮光を賜はる。聖恩の廣大、聖慮の深遠、我等國民はたゞ々々恐懼し感激し奉るのみである。

惟ふに本邦消防の發達は、輒近最も著しきものがあるとはいへ、その制度や設備に未だ完璧を期し得たとは言へない。茲に於てか身消防の職に在ると否とを問はず、國民協力一致、聖恩の厚さに感奮して銳意その改善充實

に努め、以て聖旨の渥きに副ひ奉らねばならない。

吾人はこゝに鑑みるところあり、「御親閲記念消防名鑑」なる一書を編み、載するところ御親閲の状を拜寫せる御寫眞並に堵列參列式の概況記事と全國消防代表者の肖像氏名等を併せ掲げ、以て光輝ある此日を永久に記念すると同時に、聖恩の廣大なるを子孫に傳へ、一面榮光に輝く參列者の芳名を千載の後に貽さんと欲するものである。若し夫れ本書に依つて聊かたりとも斯界に資するところあらば、編者の以て望外の幸ひとするところである。

昭和四年十月

編者

全國消防御親閲記

長くも 聖上陛下御即位の第一春たる昭和四年一月六日、あゝ記念すべきこの日こそ、實に我國開闢以來いまだ昔て前例を見ない全國消防組御親閲の當日であつた。この日大内山の松の色は朝日にてり映えて翠益々濃やかに麗和瑞祥の氣玉土の津々浦々に響びきわたる。以下謹んで當日の概況を記して以て聖恩の優渥なるを永く後世に傳へやう。

金色燦然なる便殿と玉座

先づ式場に宛てられた皇城二重橋前宮内省所定の場所には金色燦然たる菊花御紋章を付したる便殿並びに玉座をしつらへ、委員や各係員は午前七時に夫々位置に着き、同九時に式場全般に亘つて點檢を行ひ、交通を遮斷し整理萬端遺憾なきを期した。

紅一點の女子消防の一隊

參加地方部隊は各府縣、北海道、樺太、朝鮮、臺灣を合せ總數八千三百九十八名、これに引率警官、消防官吏を加へその數實に八千四百五十七名の多きに達した。この日早朝から豫ての計畫に従つて引率者指揮の下に大手門から平河門、竹橋を経て雉子橋に至る濠端歩道上に集合を終り、指揮者から地方堵列班委員に報告して入場の通告を待つ、先づ午前九時から遙々この晴れの光榮に浴せんとして上京した朝鮮の一隊を先頭に、肅々として式場に進み、同十時には悉く所定の位置に着き、徐ろに御親閲の時を待った。

警視廳から參加したのは特設消防隊一千四百四十二人、同仰筒自動車八十七臺、外に東京消防組四十組一千五百人、府下公設

消防組百七十二組の代表者一萬三千七百一人、其他青年消防代表隊五十八人、中にも青梅在の女子消防代表隊三十七人が萬縁叢中に紅一點を添へて衆目を引いた。これに引率警察官吏百七十一人を加へて合計一萬六千六百餘人の多きに達した。

人の海人の山、稀有の壯觀

定刻の午前八時、早くも陪觀者、新聞記者等續々と參入、同十時には早くも立錐の餘地なきに至り、貴賓及び陪觀紳士席も零時三十分には満員となつた。此の日空前の盛儀を他所乍ら拜觀せんとして場外に蟻集する群集は、殆かも人の山を築き其數幾十萬なるを知らざる稀有の壯觀を呈した。

午後零時五十分閑院宮載仁親王殿下には、坂下門から式場に成らせられ、望月主務大臣を始め、田中總理大臣、白川陸軍大臣、岡田海軍大臣、久原逓信大臣、徳川貴族院議長、各國大公使其他朝野の名士續々と式場に參入した。即ち陪列席八百九十四人、特別陪觀席千八十六人、陪觀席三千八百七十一人合計五千八百五十一人に上つた。

形容肅然たる中を下檢閲

堵列部隊の整頓終はり、形容肅然たるに至ると、午前十一時三十分、空砲信號一發を合圖に、望月内務大臣は横山警保局長、内田消防部長、牛島警務部長、松井消防協會副會長、緒方、有馬協會理事及び橋本協會幹事を隨へ、無蓋自動車にて下檢閲を行つた。

聖上臨御、御親閱始まる

刻一刻、時の移るに従つて參列諸員の敬虔眞摯の態度は期せずして一致した。曷て午後一時、空砲信號音高く青空に轟き渡

りて、陛下二重橋御通御を報じた、時に海軍々樂隊は「君が代」を奏し、各隊の喇叭「氣を付け」の信號と共に各隊指揮官の號令一下一齊に姿勢を正す、此の時兩簿肅々正門を出御式場に臨幸あらせられた。

仰げば尊し 今上陛下

には陸軍通常御禮裝に大勳位の略綬を御佩用、河井侍従次長御陪乘、一木宮相を始め宮内諸官を隨へさせられ、整列部隊の最敬禮裡に、無蓋自動車に召されて式場便殿に著御あらせらるれば、供奉服に身を固めたる望月内相は、直ちに自動車にて御先導、宮田警視總監、横山警保局長等扈從し奉つた。

長くも 陛下には、祕寒凜烈寒風砂塵を吹き捲くりて、濛々たる中を、御軍帽の頤紐さへ下させ給ひ、御順路に依り協會代議員たる消防組頭の一隊より順次に場内狭しと充ち満てる二萬五千の消防隊を順次御巡閱遊ばされ、午後一時八分終つて便殿に着御あらせられた。

陛下の便殿に入らせらるゝや、望月内務大臣は鞠躬如として御前に進み、別項の如く消防情勢に就いて委曲奏上された。

畏し寒風砂塵の中に御直立

内相の奏上終るや、陛下には長くも御便殿の前方十數歩の位置に、一段高くしつらへたる御野立所へと登らせ給ふ。此日朝來天日殊の外うらゝかなりしも正午近くから遽かに強風起つて濛々たる砂塵を飛ばし、寒氣肌を刺す中を毫もいとせられず陛下には式場廣場の眞つたゞ中に儼として立たせ給ふ。參列者一同はたゞく恐懼するのみであつた。

壯絶愉絶！各隊の分列式

斯くて空砲信號一發を合圖に、宮田警視總監は玉座前に進み、分列式開始の旨奏上し奉るや、こゝに壯烈なる場面が展開された。たゞ見る「前へ」の信號喇叭を合圖に、小泉消防司令の指揮する東京市消防四十組一千五百人の木遣行列行進は、江戸消防の華かな昔を偲ばしめ、続いて山川消防司令の指揮する府下公設消防代表四十隊一千五百餘人、並びに青年隊代表五十八人、女子消防隊代表三十七人の徒歩分列行進の、近代的消防訓練の周到さは、軍隊のそれにも劣らざるの感があり、最後を飾る警防司令部直轄隊並びに七警防隊八十七臺の消防自動車を以て編成された警視廳消防隊の分列行進は誇らかに最新科學消防の威容を示して餘りあつた。

聖上陛下萬歲三唱裡に還幸

斯くして各隊は順次豫定の奉送位置に著けば、宮田警視總監は式の終了を奏上した。望月内務大臣は、玉座に相對する臺上に上つて恭しく「天皇陛下萬歲」を唱へ奉れば、參列諸員之れに和し、其聲天地に轟き、大内山に響して聖壽の無窮と、昭和聖代の彌榮とを祈り奉つた。

既にして侍從長の奏請に依り還御仰出され、空砲信號二發、喇叭「氣を付け」海軍々樂隊並びに喇叭隊の「君が代」吹奏諸員最敬禮裡に、龍顏殊の外麗はしく宮城へ還幸遊ばされた。

望月内相、宮田警視總監は、式終了を告ぐるや直ちに參内御禮執奏方を請ふ所があつた。茲に空前の御親閱式は恙なく終りを告げられた。式後御親閱參列者に對し特別の思召を以て新宿御苑の拜觀を許され重ね々光榮に浴して一同感泣した。

内務大臣奏上

臣圭介謹ンデ奏上致シマス
本日畏クモ

陛下ノ御親臨ヲ忝フシ全國消防組並ニ特設消防隊ニ御親閱ヲ賜リマシタコトハ全國消防關係者ノ齊シク無上ノ光榮トスル所デ御座イマシテ、寔ニ恐懼感激ニ堪ヘザル處デアリマス、全國消防組並ニ特設消防隊ノ情勢ヲ申シ上ゲマスレバ、公設消防組壹萬壹千六百八十五組、組員百八十九萬八千九百三十三名、消防署四十署其ノ職員二千九百二十八名外ニ消防員六千二百三十名デ御座イマシテ、消防用動力車四千五百四十五臺、手動車四千二百七十臺其ノ他ノ消防車八千八百八十四臺ヲ有シテ居リマス。

本日參加致シマシタ者ハ右ノ中全國公設消防組代表二萬六千名、警視廳消防職員消防部長以下壹千四百四十二名、東京市消防組員壹千五百二十名、警視廳管下青年消防隊代表五十七名、女子消防隊代表三十七名等デ御座イマス。

全國消防施設並ニ火災損害等ノ概要ニ關シマシテハ別ニ書類トシテ奉呈致シマス。

謹ンテ案シマスルニ今日ノ御親閱ヲ賜ハリマシタコトニヨリマシテ、帝國ノ消防界全體ハ聖恩ノ鴻大ナルコトニ感泣致シ必スヤ其ノ進歩發達上著シキ刷新ノ機運ヲ齎スコト、信シマス、消防ノ職司ニ在リマスル者ハ今後一層奉公ノ至誠ヲ捧ケマシテ、本日ノ光榮ヲ空フセサランコトヲ期スル次第テ御座イマス。

宮内大臣官房 課 官發第九三一號
文 書
昭和三年十二月二十八日

内務大臣 望月圭介殿
宮内大臣 一木喜徳郎

來昭和四年一月六日午後一時宮城二重橋前廣場ニ於テ全國公設消防組並特設消防隊ヲ親閱可被爲在旨被仰出候
追テ當日強風雨ノ節ハ翌七日、七日強風雨ノ節ハ御取止ノコト

宮内大臣官房 課 官發第九三一號
文 書
昭和三年十二月二十八日

警視總監 宮田光雄殿
宮内大臣 一木喜徳郎

來昭和四年一月六日午後一時宮城二重橋前廣場ニ於テ全國公設消防組並特設消防隊ヲ親閱可被爲在旨被仰出候
追テ當日強風雨ノ節ハ翌七日、七日強風雨ノ節ハ御取止ノコト

御親閱次第

一、臨

御

午後一時

氣ヲ付ケ

(喇叭「氣ヲ付ケ」吹奏)

「君ケ代」

奏樂

二、敬

禮

(空砲信號一發)

三、御

親閱

四、玉座

御着

五、内務大臣

奏上

六、分

列式

(空砲信號一發)

イ、警視總監分列式開始ノ旨奏上

ロ、木遣分列(開始信號喇叭「前」吹奏)

東京市内消防組

ハ、徒歩分列(開始信號喇叭「前」吹奏)

東京府下公設消防代表隊、

青年及女子消防代表隊(奏樂)

ニ、自動車分列(開始信號喇叭「前」吹奏)

警視廳消防隊(奏樂)

七、萬

歳三唱

八、敬

禮

(空砲信號一發)

九、還

御

「君ケ代」

奏樂

一〇、解

散

(空砲信號二發、喇叭「解散」吹奏)

寄書

參列の榮に浴して

富山縣戸出消防組
第一部 小頭部長

柴田 太四郎

私は大正十三年八月當部の小頭に任命され其年十一月畏くも今上陛下攝政宮殿下に在せし時特別大演習北陸行啓に際し御警衛補助員の重任を託せられて恙なく其職責を果しました。然るに今復當組を代表して御親閱式に參列の光榮に浴したるは何たる僥倖でありませう。聖恩鴻大深遠、只々感激の外はありません。これと申すも全く身幸ひに消防の職に在つた賚ものと衷心感謝の意を表して居る次第であります。惟ふに消防に従事するものは常に突發的に起る災害に臨んでは身を忘れ家を忘れて分秒も猶豫せず猛火と戦ひ以て公衆の生命財産を保護するの重責を有してゐることは言ふ迄もありません。軍人の勝利は「最後の五分間」と言ひますが消防のそれは「最初の五分時」に消し止めねばなりません。否、寧ろ未然に防ぐこそ本分であり、斯くの如く私共は平時も非常時も常に重大な職責を有してゐるのであるから、畏くも、聖上陛下に置かされては常にこのことに大御心を注がせ給ふの餘り我々を召されて御親閱遊ばされたこと、拜察いたします。私共は聖旨の深遠宏大なるに感激發奮して、協力一致所謂消防精神を發揮し、その發達改善に努め、以て優渥なる聖旨に副ひ奉らねばならぬことと存じます。

豊川 政己君

野崎 莊次郎君

五二三村岡三郡久佐北縣野長

員議會縣野長
頭組消防岡三

君 巳 政 川 鹽



村田本郡原蒲北縣湯新

頭組副組消防

君 郎 次 莊 崎 野



（全通信第一號）
（全通信第二號）
（全通信第三號）
（全通信第四號）
（全通信第五號）
（全通信第六號）
（全通信第七號）
（全通信第八號）
（全通信第九號）
（全通信第十號）
（全通信第十一號）
（全通信第十二號）
（全通信第十三號）
（全通信第十四號）
（全通信第十五號）
（全通信第十六號）
（全通信第十七號）
（全通信第十八號）
（全通信第十九號）
（全通信第二十號）
（全通信第二十一號）
（全通信第二十二號）
（全通信第二十三號）
（全通信第二十四號）
（全通信第二十五號）
（全通信第二十六號）
（全通信第二十七號）
（全通信第二十八號）
（全通信第二十九號）
（全通信第三十號）
（全通信第三十一號）
（全通信第三十二號）
（全通信第三十三號）
（全通信第三十四號）
（全通信第三十五號）
（全通信第三十六號）
（全通信第三十七號）
（全通信第三十八號）
（全通信第三十九號）
（全通信第四十號）
（全通信第四十一號）
（全通信第四十二號）
（全通信第四十三號）
（全通信第四十四號）
（全通信第四十五號）
（全通信第四十六號）
（全通信第四十七號）
（全通信第四十八號）
（全通信第四十九號）
（全通信第五十號）
（全通信第五十一號）
（全通信第五十二號）
（全通信第五十三號）
（全通信第五十四號）
（全通信第五十五號）
（全通信第五十六號）
（全通信第五十七號）
（全通信第五十八號）
（全通信第五十九號）
（全通信第六十號）
（全通信第六十一號）
（全通信第六十二號）
（全通信第六十三號）
（全通信第六十四號）
（全通信第六十五號）
（全通信第六十六號）
（全通信第六十七號）
（全通信第六十八號）
（全通信第六十九號）
（全通信第七十號）
（全通信第七十一號）
（全通信第七十二號）
（全通信第七十三號）
（全通信第七十四號）
（全通信第七十五號）
（全通信第七十六號）
（全通信第七十七號）
（全通信第七十八號）
（全通信第七十九號）
（全通信第八十號）
（全通信第八十一號）
（全通信第八十二號）
（全通信第八十三號）
（全通信第八十四號）
（全通信第八十五號）
（全通信第八十六號）
（全通信第八十七號）
（全通信第八十八號）
（全通信第八十九號）
（全通信第九十號）
（全通信第九十一號）
（全通信第九十二號）
（全通信第九十三號）
（全通信第九十四號）
（全通信第九十五號）
（全通信第九十六號）
（全通信第九十七號）
（全通信第九十八號）
（全通信第九十九號）
（全通信第一百號）

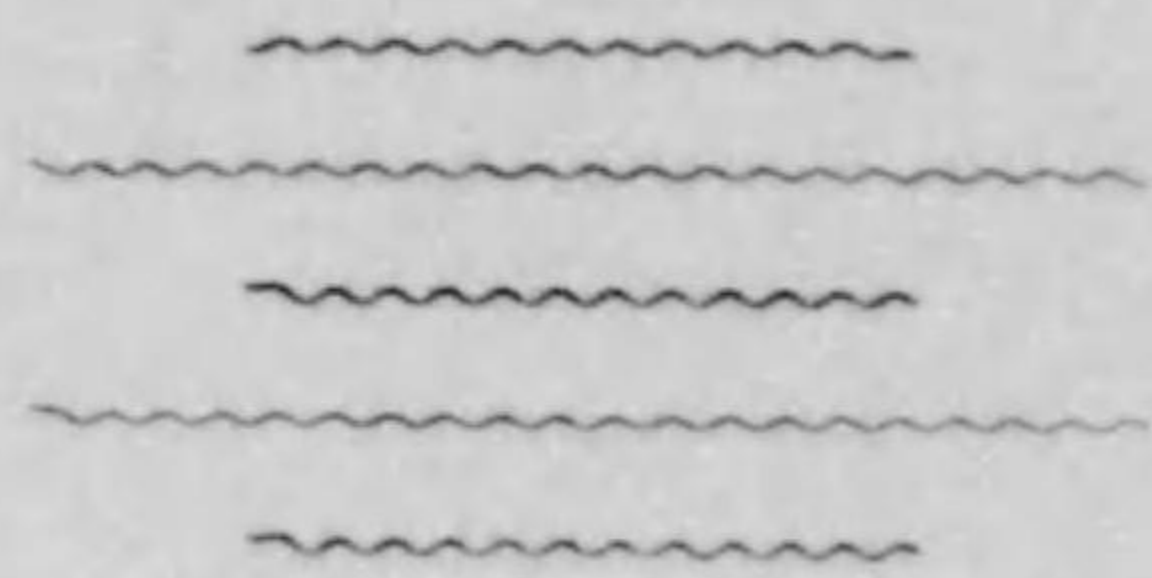
參列の榮に浴して

私は大正十三年八月當郡の小頭に任命され其年十一月長くも今上陛下即位宮殿下に在りし時特別大演習北陸行營に際し御警備補助員の重任を託せられて悉く其職責を果しました。然るに今度當組を代表して御警備式に参列の榮に浴したるは何たる機縁でありませう。警備式大演習、只々感涙の弁はありませぬ。これと申すも全く身命に消防の職に在つた者ものと衷心感涙の意を表して居る次第であります。然るに消防に従事するものは常に突発的に起る災害に臨んで自身を他を忘れて分秒も猶豫せず猛火と戦ひ以て公衆の生命財産を保護するの重責を有してゐることには言ふまでもありません。家人の福利は、我々の福利に比しなほ甚だしく消防のそれは、最初五分時に消し止むれば済みます。否、幸ふれば然るに防くべき分際あります。斯くの如く我々は平時も非常時も常に重大な職責を有してゐるのであるから、投ぐも、聖上陛下に臨みせられては常にこのことに大御心を注がせ給ふの餘り我々を召されて御警備式にされたことと、殊に喜ばれます。私共は御旨の御通達大なるに感涙發奮して、協力一致所謂消防精神を發揮し、その發達改革に努め、以て優越なる聖旨に副ひ奉らねばならぬことと存じます。

野崎 莊次郎、川鹽 政巳、岡三 消防頭組

三宅吉郎君

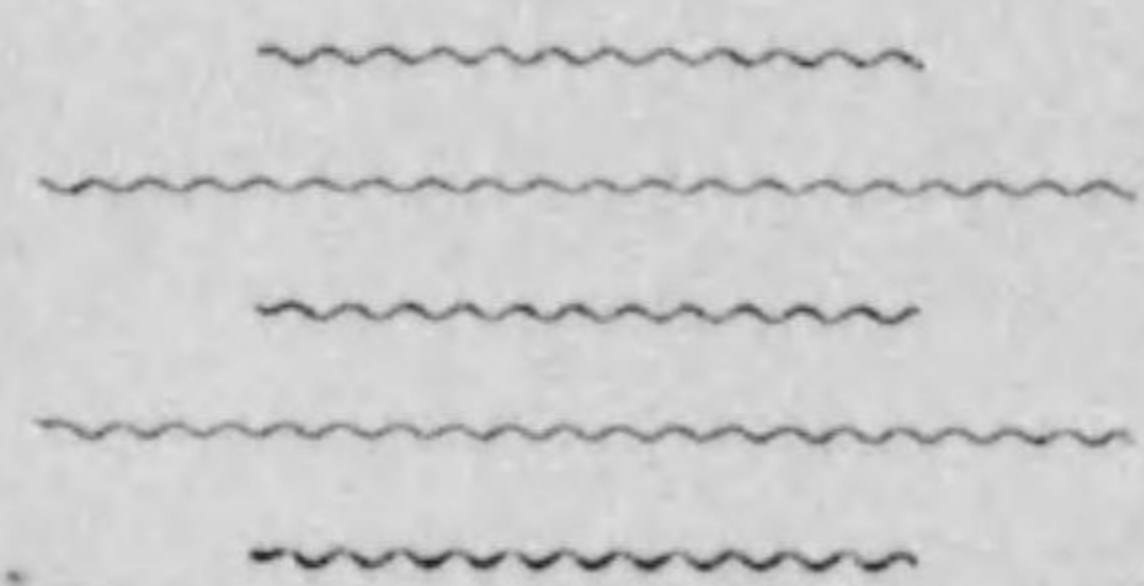
竹政武一君



朝鮮馬山府
馬山消防組頭
同協談會員
三宅吉郎君



岡山縣吉備郡總社町
消防組部長
竹政武一君



三宅吉郎君

竹政武一君

淺川萬壽雄君

大野權右衛門君

山梨縣北巨摩郡大泉村

村會議員・消防組頭

淺川萬壽雄君



福島縣耶摩郡上三宮村

消防組小組頭

大野權右衛門君



淺川萬壽雄君

大野權右衛門君

國弘將介君

海老澤孝太郎君


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

町狭厚郡狭厚縣口山
長部一第組消防
君介將弘國



禮牟字村鷹三郡摩多北府京東
頭小長部九第組消防
君郎太孝澤老海



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

國
皇
孫
介
其

新
法
新
孝
太
源
君

白
水
喜
造
君

村
田
作
十
君

佐賀縣三養基郡鳥栖町

消防組小頭

白水喜造君



鹿兒島縣島嶼郡川村中野

川村消防組頭

鹿兒島縣本炭同業組合代議員

川村會議員

村田作十君



村田作十君

川崎留次郎君

小杉健一君


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

朝鮮全北金堤郡金堤面

金堤消防組頭
金堤面協議員

川崎留次郎君



東京府荏原郡碑衾町字衾六一六

東京消防協評議員
碑衾町消防組頭
碑衾町分會長

小杉健一君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

川崎留次郎君

小杉健一君

阿部寅七君

梶久吉君

目丁一町濱南町岡眞太樺
頭部一第組防消
員議評町岡眞
君七寅部阿



町塚貝郡南泉府阪大
頭組防消
君吉久梶



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

阿
部
寅
七
君

梶
久
吉
君

秋元秀太郎君

瀬古富治君

五〇二二町戸藤郡島見縣山岡

頭組消防・員議合町
員議代合組業同草蘭縣山岡

君郎太秀元秋



保上村田席郡巢本縣阜岐

頭小組消防

君治富古瀬



秋元秀太郎

瀬古富治

松尾傳吉君

藤井幸次君

青森縣三戶郡三戶町
 三戶消防組頭
 帝國在郷軍人會三戶分會長
 松尾傳吉君



北海道空知郡栗澤村眞清
 清眞消防組頭
 栗澤村會議員
 藤井幸次君



松尾傳吉君

藤井幸次君

石
村
良
平
君

飯
田
市
三
郎
君


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

町下上郡奴甲縣烏廣
長部組消防
君平良村石



木長村永延郡都京縣岡福
長部一第組消防
事理合組用信
長 區
君郎三市田飯



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

石  
村  
良  
平  
君

飯  
田  
市  
三  
郎  
君



久未庄五郎君

本間多一郎君



村國ノ上郡山檜國島渡道海北

頭組防消國ノ上  
員議會村國ノ上

君郎五庄末久



村山横郡川田東縣形山

頭小組防消

君郎一多間本



八  
未  
由  
正  
浪  
音

本  
間  
多  
一  
浪  
音



渡邊傳藏君

井川萬吉君



秋田縣雄勝郡新成村

消防組小組頭

渡邊傳藏君



山口縣大島郡安下庄町

青年訓練所指導員・農會幹事  
消防組第二部小組頭

井川萬吉君



渡邊傳藏君

井川萬吉君



篠崎與八郎君

高橋誠一君



村河川郡岐登縣崎長  
員議會村河田  
頭組防消邊芹  
君郎八與崎篠



崎ヶ栗向村灘内郡北河縣川石  
頭小組防消  
君一誠橋高



崎長八與

高橋誠一



渡部 徳一君

増田 彌三郎君



愛媛縣温泉郡小野村

消防組頭・區長

渡部 徳一 君



香川縣三豐郡勝間村

消防組頭

増田 彌三郎 君



增田彌三郎



笹部仙太郎君

齋藤新藏君



大阪府豊能郡熊野村  
消防組組頭  
笹部仙太郎君



千葉県葛飾郡馬橋村  
消防組小頭  
齋藤新藏君



菅沼大狼君

齋藤新藏君



西  
片  
岩  
太  
君

田  
中  
佐  
一  
君



新湯縣古志郡下樋谷村大字上桒出

消防組頭兼小頭  
青年顧問・衛生委員

西片岩太君



山口縣厚狹郡藤山村

消防組頭  
村會議員

田中佐一君



西片岩太君

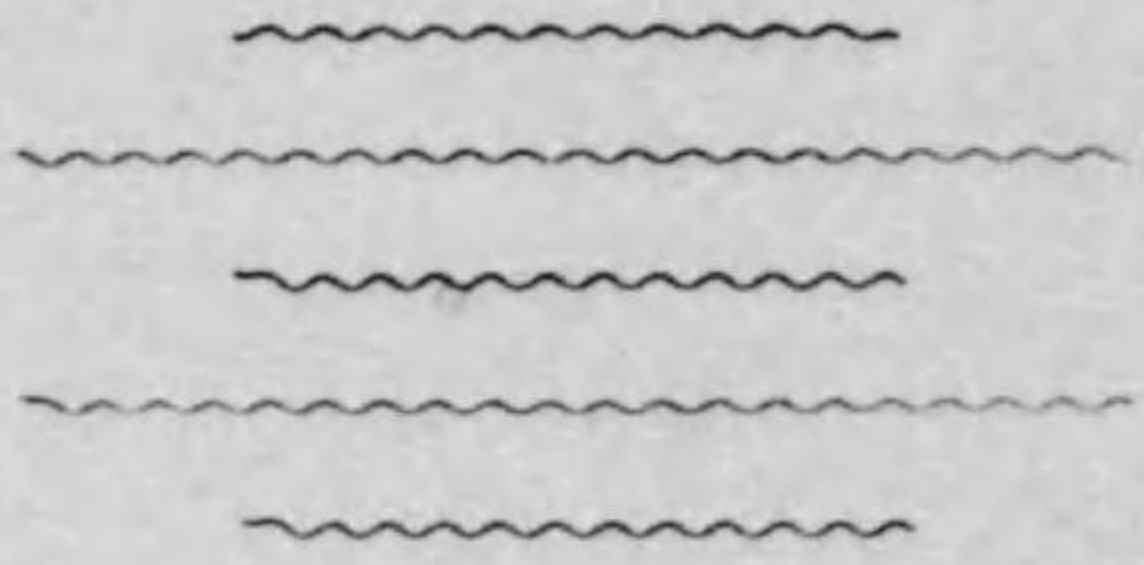
田中佐一君



野口榮三君

加藤良右衛門君

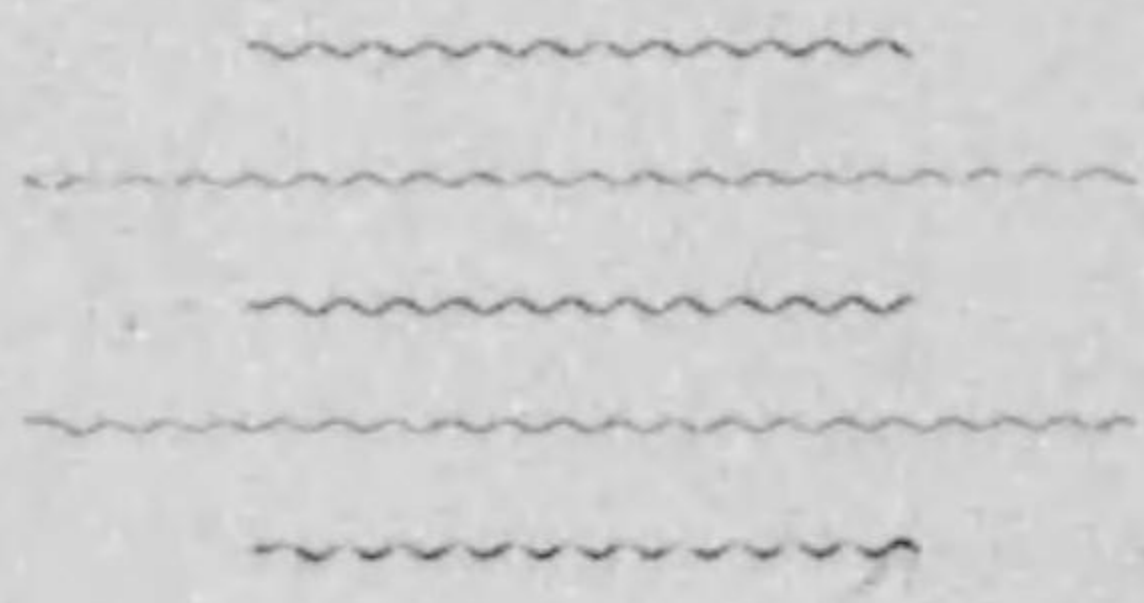
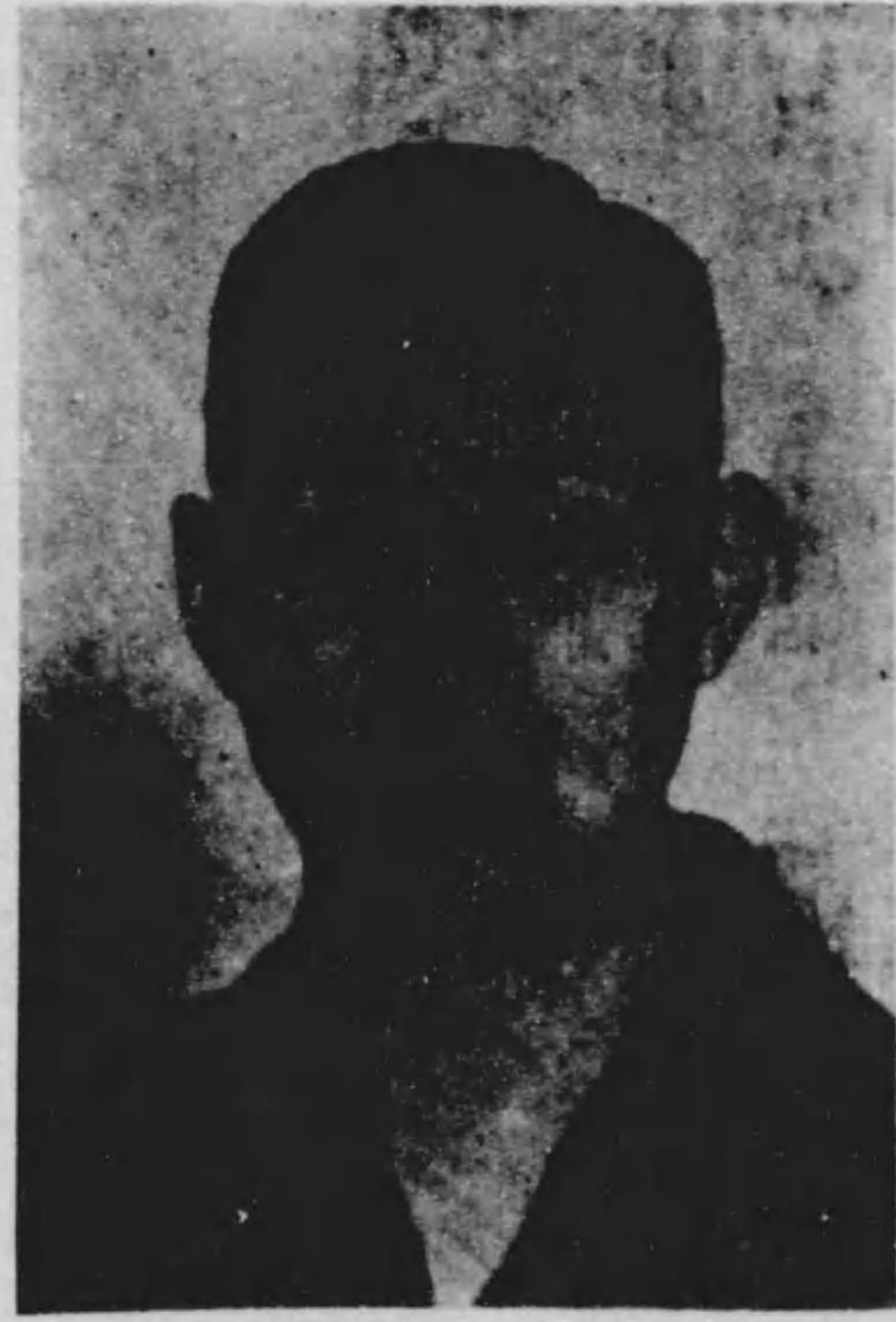




市城都縣崎宮  
員議代縣崎宮  
頭組防消市城都  
君三榮口野



村里豐郡米登縣城宮  
耕長合組買勝用信・頭組防消  
村町沼田中・長副合組理整地  
員議會々村里豐・員議會合組  
君門衛右良藤加



野口榮三

加藤良右衛門



風間儀右衛門君

高田幸三郎君



千葉縣印旛郡白井村字風間  
消防組頭  
風間儀右衛門君



東京府下落合町  
消防組副頭  
町會議員  
高田幸三郎君



風間儀右衛門君

高田幸三郎君



小  
野

進  
君

小  
川  
傳  
七  
君



岩手縣贈澤郡相去村

相去消防組頭

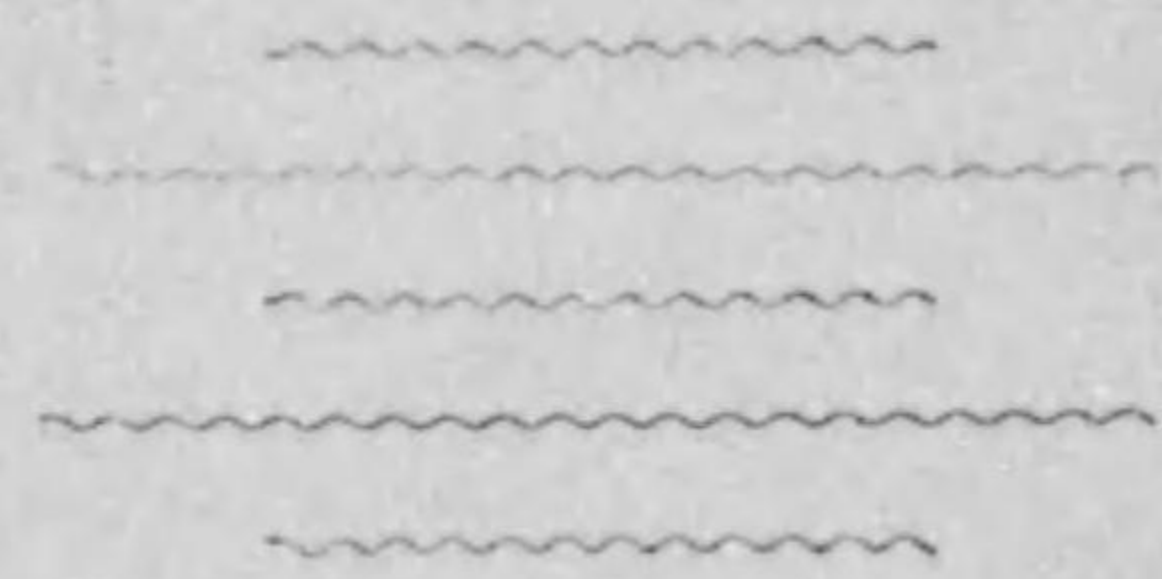
小野進君



名古屋外市西把山市場

西把島設場消防組頭  
西把島警察署內消防聯合會副會長  
愛知縣消防義評議員

小川傳七君



小

川

傳

小

川

傳

七

君



金澤正直君

大越市郎君



福岡縣京都都中津村  
消防組小頭  
金澤正直君



新潟縣西蒲原郡和納村  
消防組小頭  
大越市郎君



金澤正直君

大越市郎君



松林齋三七君

浦井新市君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

福井縣遠敷郡中名川村深谷  
中名川消防組頭  
松林彌三 七君



福井縣坂井郡木部村清永  
清永消防組頭  
浦井新市 市君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

松林彌三 七君

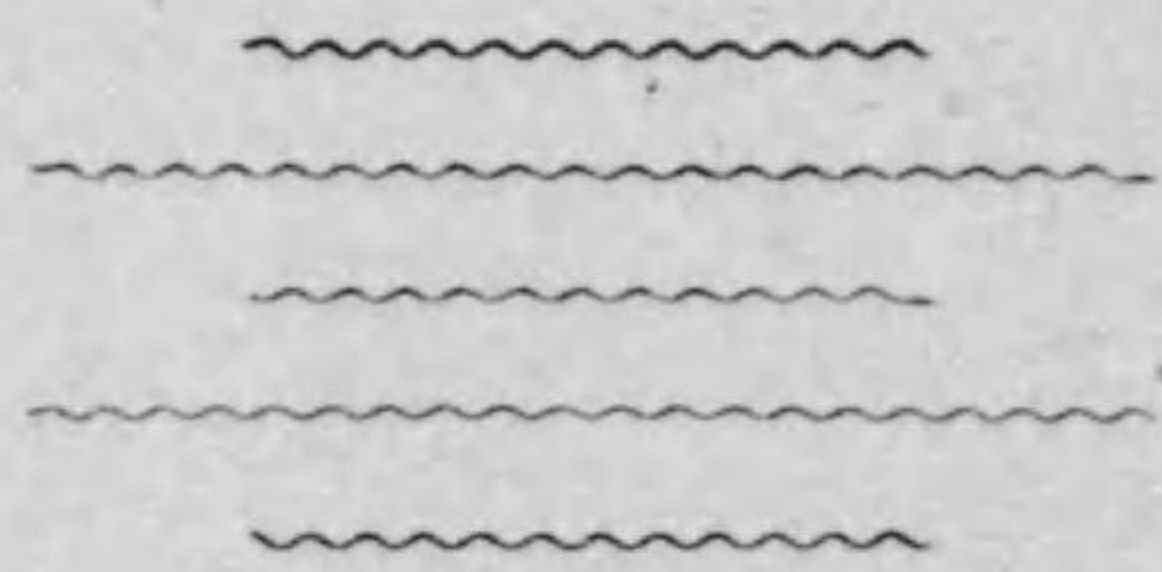
浦井新市 市君



井  
上  
直  
治  
君

金  
在  
龍  
君

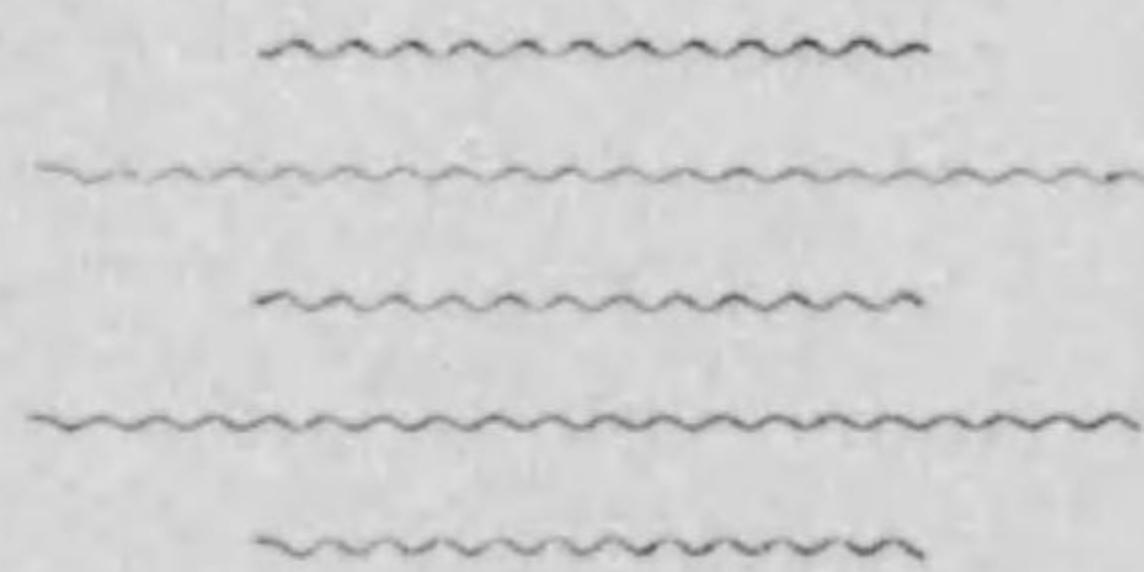




神奈川縣高座郡大和村  
上草柳消防組頭  
井上眞治君



朝鮮黃海道山谷郡  
消防組小頭  
全在龍君



長  
土  
真  
部  
長

金  
井  
部  
長



吉田義隆君

大田善次君



村本柄郡草天縣本熊  
 員議會村・員議會農郡  
 長合組賣販買購用信本柄任責限有  
 役助村・長會副會農  
 頭組防消  
 君隆義田吉



老養村莊平郡南印縣庫兵  
 頭小組防消部九第  
 君次善田大



~~~~~  
 ~~~~~  
 ~~~~~  
 ~~~~~

田 善 次 君

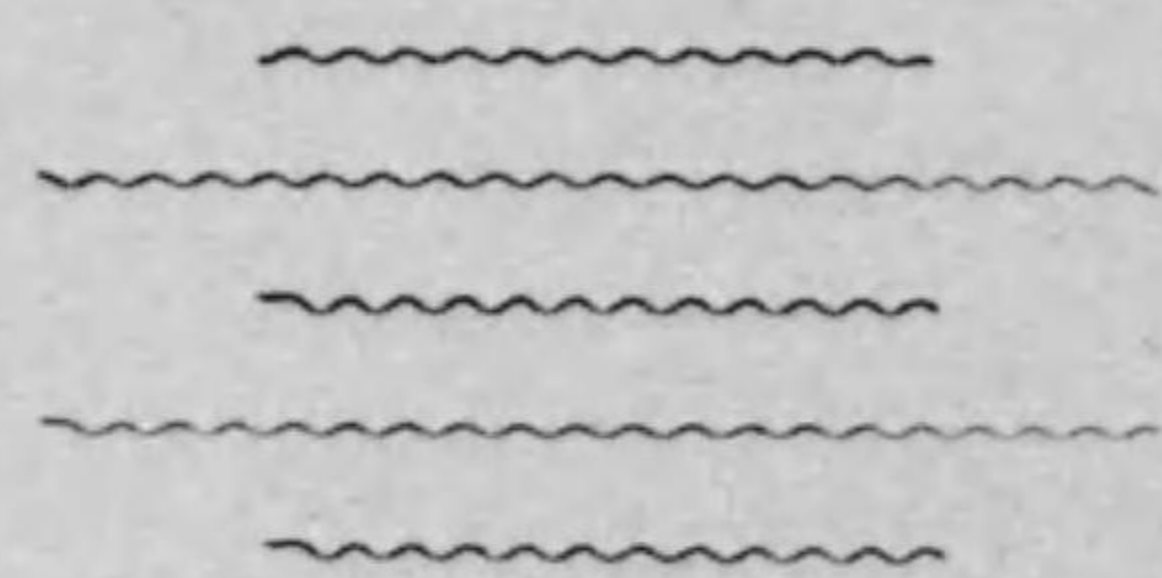
大 田 善 次 君



中  
村  
一  
三  
君

椎  
原  
虎  
藏  
君





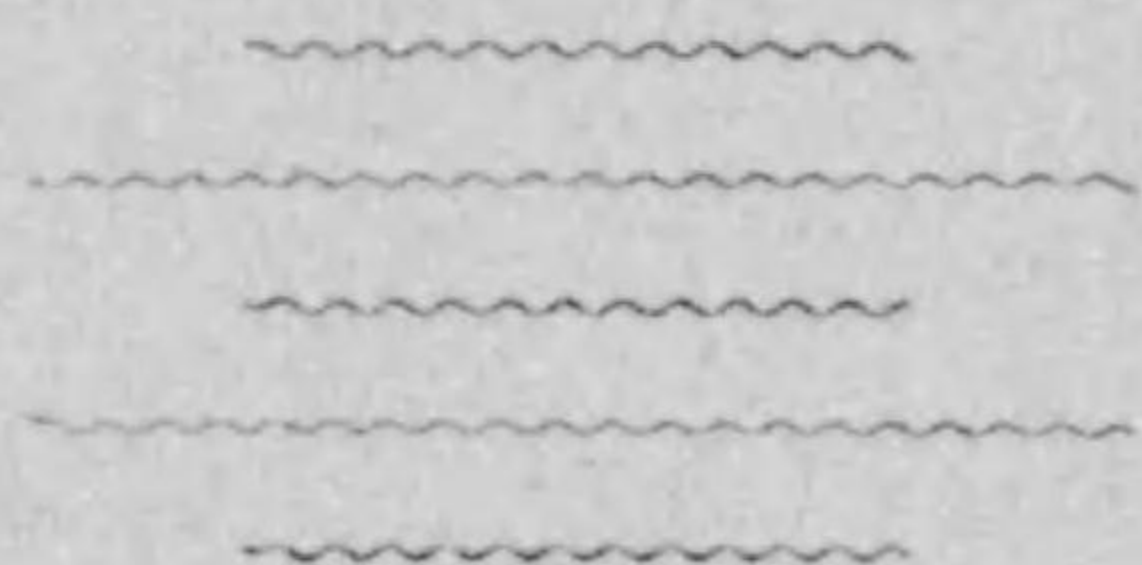
町山鹽郡梨山東縣梨山  
頭組防消  
君三一村中



村津野南郡野大縣分大

頭組防消

君藏虎原椎



中  
村  
一  
三  
君

原  
虎  
藏  
君



井

上

清君

花

村

環君



朝鮮忠南保寧郡  
熊川消防組頭  
井上清君



岐阜縣羽島郡福壽村  
消防組頭  
帝國海軍人會福壽村分會長  
花村環君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

米  
土  
油  
糖

海  
陸  
軍  
隊



土居喜三郎君

平山伊太郎君



愛媛縣北宇和郡奥南村

消防組頭

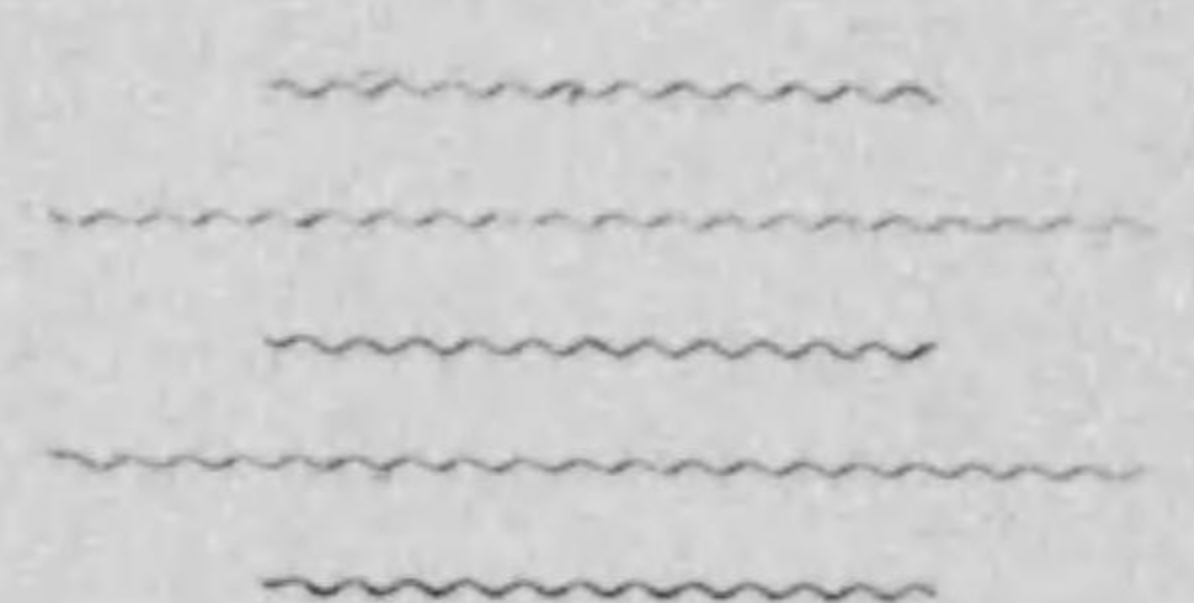
土居喜三郎君



佐賀縣杵築郡武雄町

消防組小頭  
商工會理事

平山伊太郎君



土居喜三郎君

平山伊太郎君



船橋茂三郎君

清水政二君







衣笠又四郎君

村田直熹君



朝鮮平安南道龍岡郡廣梁灣

消防組頭

衣笠又四郎君



兵庫縣城崎郡鶴野町上野

消防組小頭

村田直熹君



村田直熹



明  
田  
規  
次  
郎  
君

佐  
々  
井  
勇  
君



岡山縣和氣郡三石町

三石消防組頭  
町會議員

明田規次郎君



廣島縣神石郡永渡村

消防組小頭

佐々井勇君



明田規次郎君

明田規次郎君



安江嘉市君

川西德太郎君



郡茂加縣阜岐  
頭小組防消村川白西  
員查調計統  
君市嘉江安



瀨黒下村瀨黒下郡茂賀縣島廣  
長部頭小部二第組防消  
君郎太徳西川



安  
五  
嘉  
市  
保

川  
西  
太  
徳  
君



大  
橋  
順  
一  
君

大  
熊  
勝  
晴  
君



北海道上砂川  
消防組員・會議員・工商會頭  
大 楠 順 一 君



岡山縣久那郡國府村  
國府村產業組合理事  
國府消防組頭  
大 熊 勝 晴 君



大 楠 順 一 君

大 熊 勝 晴 君



山  
本  
平  
藏  
君

釜  
口  
喜  
永  
君



五六七六町光福郡波礪西縣山富

頭小長部二第組防消光福  
員議會町

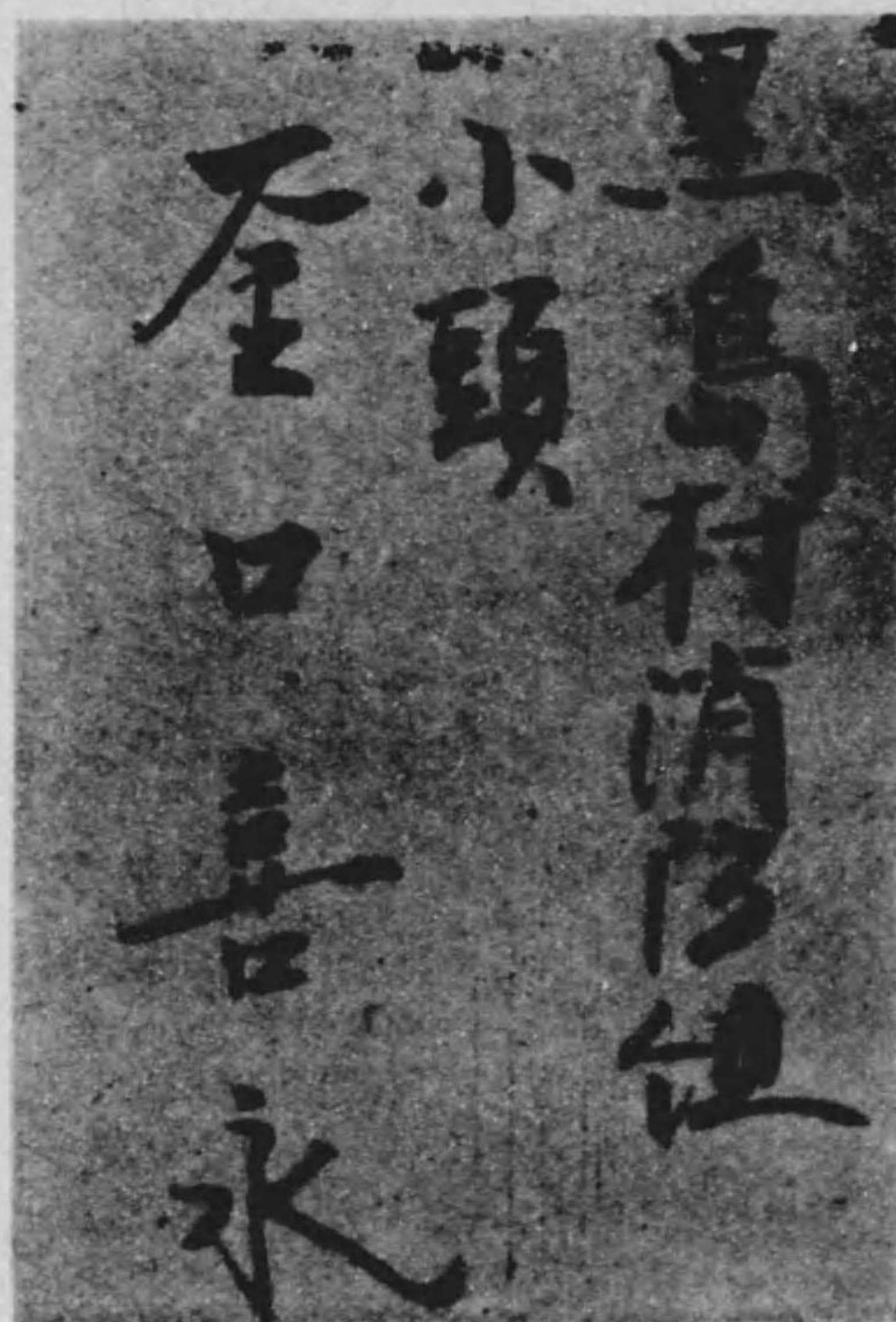
君藏平本山



村烏黑郡至鳳縣川石

頭小組防消

君永喜口釜



山  
本  
平  
藏  
君

釜  
口  
喜  
永  
君



宗

虎

吉君

金

子

春

吉君



佐賀縣佐賀郡本庄村

第二消防小頭  
村會議員

宗 虎 吉 君



橫濱市保土ヶ谷區上星川二一四

神奈川縣西戶部消防署  
所屬西谷消防組々頭  
勳七等功七級

金 子 春 吉 君



宗

吉

春

金

子

春

吉



水野純良君

日比榮次郎君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

村岡盛那茂加東縣知愛  
頭組防消  
役助村岡盛  
君良純野水



田奥村間野郡多知縣知愛  
頭小防消  
君郎次榮比日



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

水  
野  
純  
良  
君

日  
比  
榮  
次  
郎  
君



本  
澤  
博  
治  
君

中  
村  
慶  
作  
君



福井縣坂井郡丸岡町  
消防組頭  
本澤博治君



山口縣大津郡通村  
消防組頭  
中村慶作君



本  
系  
職  
官  
長

中  
一  
林  
強  
非  
保



田邊讓君

石岡久司君



山口縣美彌郡大嶺村

大嶺消防組頭  
縣會議員  
大嶺村會議員

田邊讓君



青森縣津輕郡鹿女澤村

消防組第三部長

石岡久司君



田

邊

讓

石  
岡  
久  
司



井

出

龜  
君

益

山

三

賞  
君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

朝鮮江原道江陵  
消防組頭  
井出龜君



宮崎縣西諸郡高原村  
村會議員  
消防組本部小頭  
益山三實君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

井出龜君

益山三實君



堀  
田  
孫  
橋  
君

田  
邊  
豊  
藏  
君



八四八田富西村川田井郡鹿鈴縣重三

頭組防消  
員吏査檢物殺縣重三  
級七功等七勳

君橋孫田堀



村上島郡多仁縣根島

長合組牛牡種郡多仁  
頭組防消

君藏豐邊田



組  
田  
縣  
辦  
課

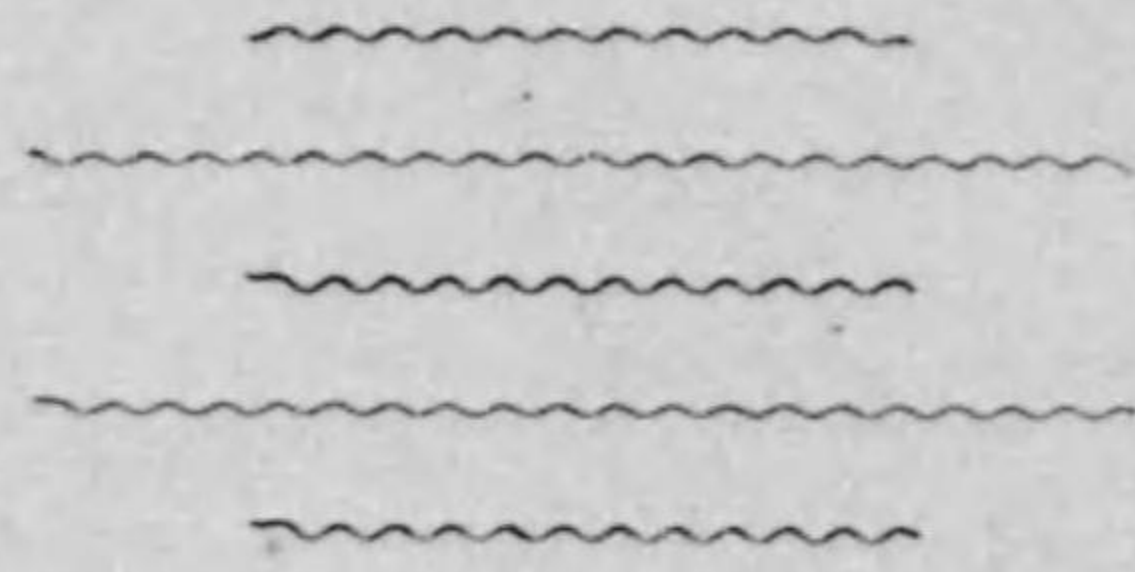
田  
邊  
豐  
藏  
君



山邊卯八君

墳古吉君

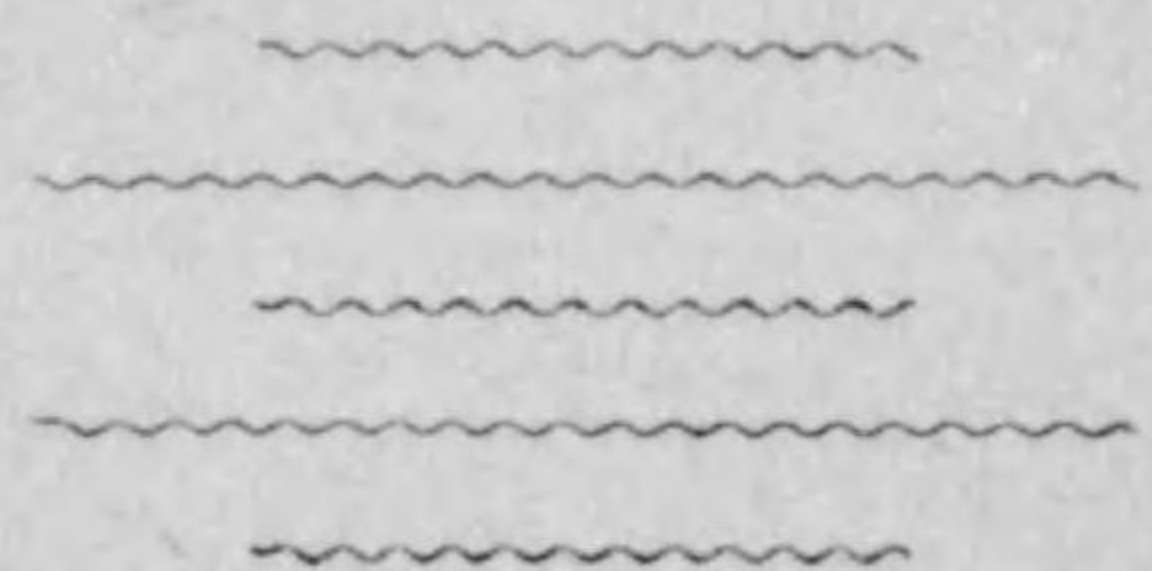




院里沙道海黃鮮朝  
 員會議協面・頭組消防  
 頭會副會協業實  
 屋濱大(號商)祖元造釀耐燒鮮朝純  
 君八卯邊山



村要郡方行縣城茨  
 頭組消防  
 君吉古 塙



山  
 邊  
 八  
 卯

古  
 吉  
 塙



牧瀨增千代君

橋本庄藏君



鹿兒島縣熊毛郡西之表町

消防組小組頭

牧瀨增千代君



朝鮮平安南道大同郡大同江面船橋里

消防組頭  
平壤府學校組合員  
大同面評議員

橋本庄藏君



朝鮮平安南道大同郡大同江面船橋里

橋本庄藏君



荒卷時次郎君

尾崎與君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

村橋三郡門山縣岡福  
頭 組 防 消  
君 郎 次 時 卷 荒



町莊御郡和宇南縣媛愛  
長部二第組防消町莊御  
君 與 崎 尾



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

荒  
卷  
時  
次  
郎  
君

尾  
崎  
與  
君



楓  
金  
之  
助  
君

手  
塚  
定  
太  
郎  
君



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

町村中郡多幡縣知高  
長會工商・頭組消防  
員委查調得所  
君助之金 楓



村川繪郡摩筑西縣野長  
頭組消防澤平  
長局便郵澤平  
君郎太定塚手



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

財  
命  
之  
御  
書

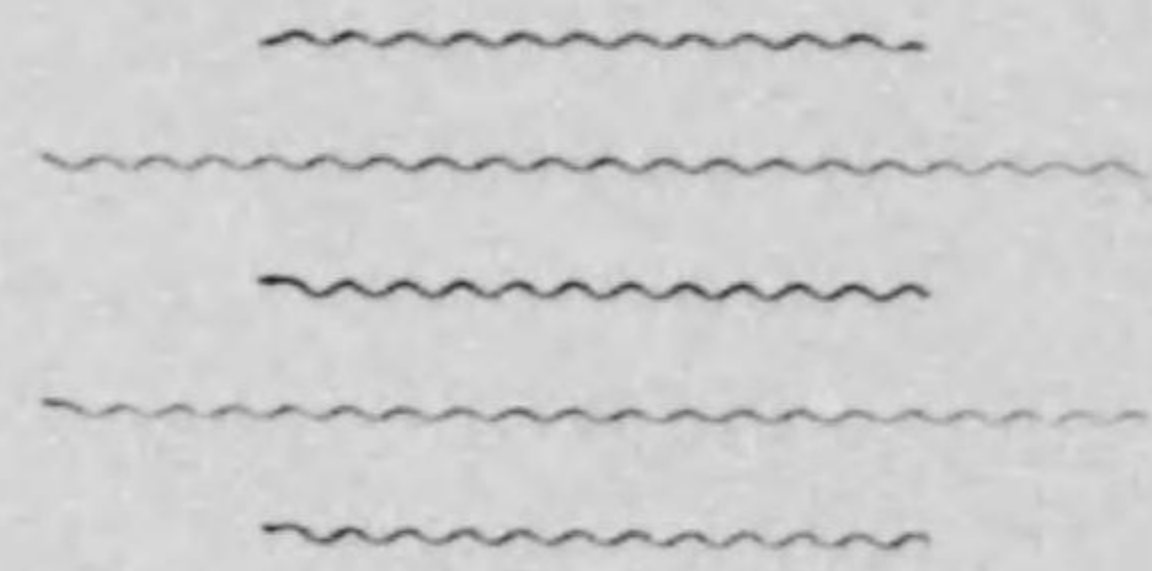
手  
塚  
定  
太  
郎  
君



澤田富五郎君

安田稔君



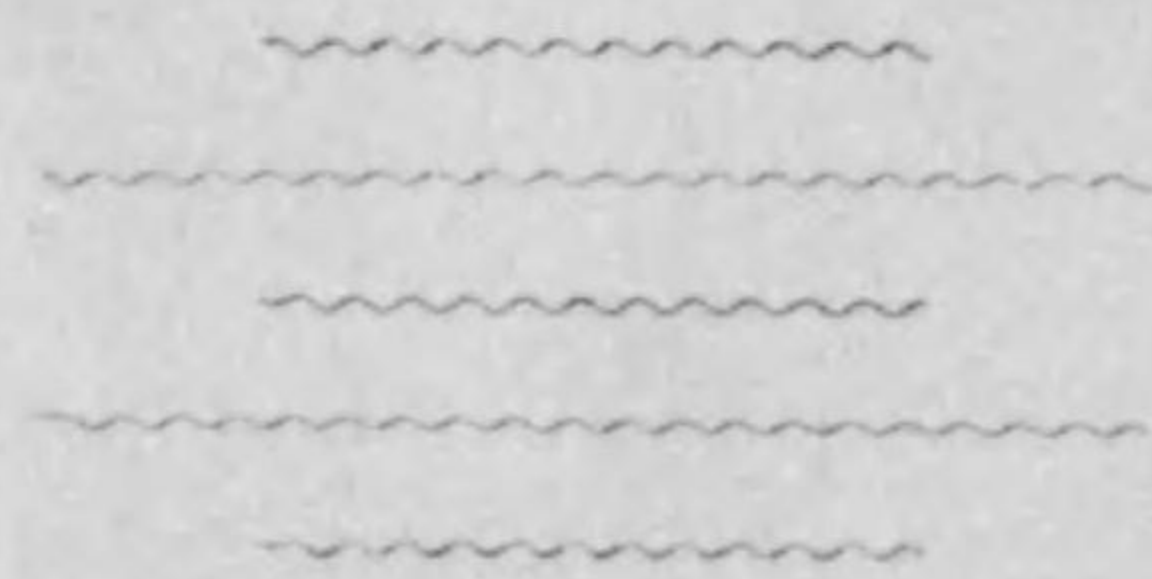


澤龜錢郡田龜道海北  
頭組防消  
君郎五富田澤



附船字大村郷笠郡老養縣阜岐  
頭組防消・員議會村  
員議會合組利水・長合組燥乾力火扱  
長體團礎基業農

君稔田安



澤  
田  
富  
正  
浪  
吾

安  
田  
稔  
吾



漢  
田  
敬  
吾  
君

萬  
代  
龍  
助  
君



熊本縣八代郡鏡町  
消防組頭  
濱田敬吾君



朝鮮黃海道  
消防組頭  
萬代龍助君



濱田敬吾君

萬代龍助君



小田圓次郎君

中村祥作君



北海道前郡焼尻  
消防組頭代理第一部長  
小田圓次郎君



新潟縣古志郡柄古  
村長・消防組頭  
中村祥作君



小田圓次郎君

中村祥作君